

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で19人

大学教授1人、医師（内科医）1人、薬剤師1人、がん患者団体1人、PTA（中、高等学校）代表2人、校長（小、中、高等学校、特別支援学校）4人、保健体育主事部会代表1人、養護教諭部会代表1人、県福祉保健部健康政策課1人、教育委員会事務局6人

2. 開催時期、検討内容

第1回がん教育推進協議会（オンライン） 令和4年8月4日（木）

【報告】・令和3年度がん教育推進事業 ・令和3年度出張がん予防教室
【説明】・令和4年度がん教育推進事業の計画 ・令和4年度出張がん予防教室の計画
【協議】・学校におけるがん教育推進について

第2回がん教育推進協議会（オンライン） 令和5年1月20日（金）

【報告】・令和4年度がん教育推進事業 ・令和4年度出張がん予防教室
【説明】・令和5年度がん教育推進事業の計画 ・令和5年度出張がん予防教室の計画
【協議】・外部講師を活用したがん教育について

② 教育委員会としての取組

○がん教育啓発研修会の開催

学校においてより効果的ながん教育が実施されるよう、指導内容の充実と教職員等の正しい理解を図ることを目的に、県外から講師を招き、研修会を開催した。

<啓発研修会の内容>

(1) 説 明 「学校におけるがん教育の推進に向けて」

鳥取県教育委員会事務局体育保健課

(2) 講 演 「今とこれからを生きる君たちへ ～学びの本質に迫るがん教育～」

ディスカッション・質疑応答

埼玉医科大学総合医療センター 緩和医療科 教授 儀賀 理暁 氏

○がん教育公開授業及び講演会の開催

県内で2校（中学校1校、高等学校1校）を推進校とし、外部講師を活用した授業公開及び講演会を開催し、がん教育実践を県内に発信した。

参加対象者：小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、がん教育外部講師、医療関係者、市町村（学校組合）教育委員会の健康教育担当者等

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○県福祉保健部との連携

- ・県福祉保健部が主催する「出張がん予防教室」を各学校へ周知し、啓発研修会で紹介した。
- ・「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストの共有についての協議を行った。
- ・学校での取組み等を情報共有し、がん教育推進について協議した。

(2) 推進校における取組

○県立境高等学校 令和4年10月31日(月)

公開授業

科目保健「がんの予防と回復」

講演会

講演「健康と命の大切さ～がんと共に生きる私から～」

医療法人養和会 看護師 松本 みゆき 氏

【講演の主な内容】

がんの現状(死亡者数、死亡率の推移など)、がん発見の経緯や気持ち、周りの支え、がんの治療、緩和ケア、寄り添い方、がんの仲間とのつながり、現在の活動について 等



はじめにクラスごとに科目保健で「がんの予防と回復」について学習した後、学年全体(1年生)で外部講師による講演を行った。学校から「外部講師には『健康や命の大切さについて』をメインに講演してほしい」という要望があったため、看護師であり、がんサバイバーでもある外部講師に依頼した。外部講師は、自身ががん経験者ということを生徒に伝え、がんの専門的な知識に加えて、がん患者や家族の気持ち、生活の変化や願い、自身の生き方について等の内容について講演を行った。学校と外部講師は、事前に授業内容や講演内容、生徒の状況等を共有し当日に臨んだ。

○伯耆町立溝口中学校 令和4年12月9日(金)

公開授業

保健体育「健康的な生活と疾病の予防 ～がんとその予防～」

講演会

講演「がんについて正しく知ろう～現場の看護師の立場から～」

鳥取大学医学部附属病院 がん化学療法看護認定看護師 平尾 敦子 氏

【講演の主な内容】

がんという病気について、がんの原因、がんの予防、がんの早期発見、がんの治療、がんになってしまったら がん患者についてのエピソード 等



はじめに保健体育で「健康的な生活と疾病の予防」について学習した後、外部講師による講演を行った。学校から「外部講師には『がんについての正しい知識』をメインに講演してほしい」という要望があったため、医療関係者(看護師)に外部講師を依頼した。外部講師は、がんの知識について最新の情報を追加したり、授業で生徒から出た質問に回答したりして授業の補足をしながら話を進めていた。

また、外部講師は事前に学校を訪問し、生徒の様子や学校の要望等を確認し、講演内容について協議したうえで当日に臨んだ。

2. 事業の達成度について

○外部講師の活用体制の整備

来年度以降、学校が外部講師を活用したがん教育を行いやすくできるように県事業「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストの共有化について、福祉保健部と協議することができた。

○外部講師及び教職員に対するがん教育啓発研修会の開催

参加者：53名（小学校5名 中学校20名 高等学校20名 特別支援学校4名 その他4名）

アンケート結果より（本研修満足度：4段階評価） 回収33名

満足した12名（36%） 概ね満足した 21名（64%）

参加者の感想（一部抜粋）

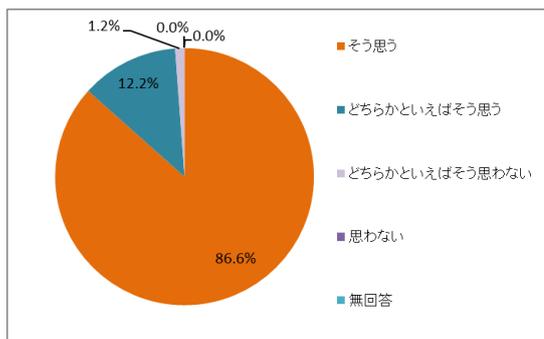
- ・がん教育のあり方や実際の取組み方の例などを聞くことができて勉強になった。
- ・がん教育を進めるにあたってどのように行っていくのかわからなかったが、外部講師の活用の方法を知りとても参考になった。
- ・体育(保健)の授業で学ぶだけでも知識は得られるが、外部講師を招いて学ぶことは知識以上のものを色々と感じて学べると思った。
- ・多忙な学校生活の中で児童生徒に本物の学びをどう届けるかということを考えさせられた。
- ・今回の研修で、がん教育に対する今までの取組み方を振り返ることができた。また、他校の先生方との話し合いの時間を設けていただいたり、ディスカッションで意見交換をしたりすることで、自分では思いつかない考え方や姿勢を知ることができた。

○がん教育公開授業・講演会の開催

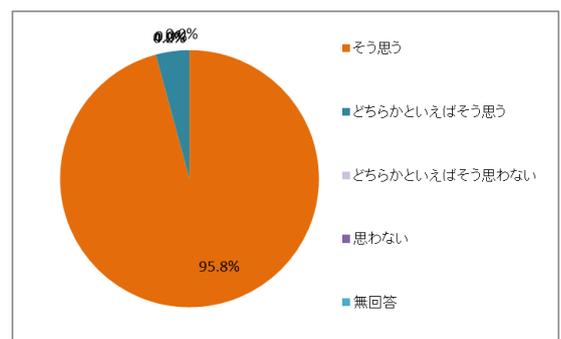
授業及び講演会の実施前と実施後のアンケート結果（一部抜粋）を比較すると以下の結果となり、がん教育の重要性やがん検診に対する意識の高まりが見られた。また、事後の感想には、学習したがんについての知識に加え、命や健康について考えた内容やがん患者に対する気持ちの変化等の内容が多く見られた。

（質問）がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。

<実施前>

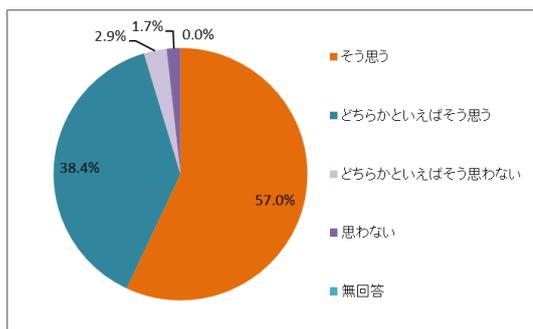


<実施後>

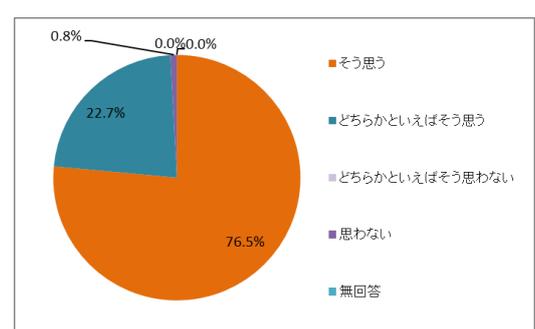


（質問）がんの検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。

<実施前>



<実施後>



生徒の感想（一部抜粋）

- ・自分も祖父をがんで亡くしていたため、この病気についてはある程度身近に感じていたが、今回改めて話を聞いて、自分や家族、友人ががんになってしまった時のことを本気で考えた。自分も含め、家族や友人に定期的ながん検診や正しい生活習慣を呼び掛けていきたい。
- ・話を聞いて、これからもっとがんについて理解を深めていきたいと思った。自分はがんになったことがあるわけではないが、少しでも知識や理解を深めることで、そういった方へ寄り添うことができたらいと思った。
- ・今日の講演会のおかげでがんのことを身近に感じることができた。両親や姉を含めた家族全員で、がん予防につとめていきたい。
- ・話を聞いて、がんは怖い病気だけれど、早期に見つければ治るということが分かった。親も50代で、がんのリスクも高いので、検診をすすめたり、理解を深めたりしていきたいと思った。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 啓発研修会の参加者や推進校の授業担当者は、がん教育の重要性や効果、外部講師活用のメリットを感じているが、全ての学校に浸透していない現状がある。また、がん教育を体育・保健体育科の教員や養護教諭など一部の教員で行っている現状が多い。がん教育は体育・保健体育の授業内で完結するものではなく、全職員共通理解のもと、特別活動や特別の教科道徳等と関連付けたりしながら、学校の教育活動全体を通じて行うという意識を持って取り組めるように、引き続き研修会や公開授業等を開催し、普及啓発を図っていく。
- 外部講師活用については、まずはがんについて授業で学ばせる体育・保健体育科の教員に活用事例や効果等を発信し、少しずつ増やしていく。
- 昨年度から外部講師リストの情報更新が行われていないので情報更新を行う。
- 県福祉保健部と協議を進めている県事業「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストの共有化について、実際の活用に向けて詳細を協議し決定していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- がん対策推進計画や学習指導要領に基づいたがん教育が推進できるように研修会等で周知する。
全ての学校で充実した取組が行えるように国の方向性や推進校の取組、教材を紹介していく。
- がん教育啓発研修会への参加を周知する。
例年、参加者の多くは養護教諭であり、それ以外は少数である。まずは、体育・保健体育科の教員にがんについての正しい知識や効果的な学習方法を学んでもらい、養護教諭と連携し、校内に広めてもらえるように参加を呼び掛けたい。
- がん教育リーフレット（県内における外部講師を活用した授業・講演会紹介や外部講師派遣の相談先が記載されたリーフレット）を配布したり、他県視察で得た外部講師を活用した授業事例を研修会等で紹介したりして外部講師を活用したがん教育を推進していく。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で15人

内訳

- (委員) ○医療関係者…学校医師会1人、拠点病院(小児科)医師1人、緩和ケアセンター医師1人
- 学識経験者…大学准教授1人
- がん経験者…がんピアサポーター1人
- 学校関係者…高等学校長代表1人、中学校長代表1人、養護教諭代表1人
- 教育委員会…教育事務所1人
- (事務局) ○県教育委員会…保健体育課長1人、健康づくり推進室4人
- 県知事部局…健康福祉部健康推進課がん対策推進室1人

2. 開催時期、検討内容

	期日	内容
第1回協議会	令和4年12月 【書面開催】	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業説明 ・「学校におけるがん教育Q&A集」について ・がん教育推進に向けた意見聴取
第2回協議会	令和5年1月17日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業報告 ・「学校におけるがん教育Q&A集」について ・今後の課題等についての意見交換

② 教育委員会としての取組

「学校におけるがん教育Q&A集(以下「Q&A集という。)」の発行

現場の疑問に答える形でがん教育を推進していくための参考資料を作成し、各学校でのがん教育がさらに充実するよう「Q&A集」を作成し、発行した。

内容は、がん教育の必要性、配慮事項、外部講師の活用方法、協力校によるがん教育の実践事例等を掲載している。

今後、「学校におけるがん教育の手引(以下「手引」という。)」とともに県内に広めていく。

がん教育研修会の開催

日時：令和4年6月23日

場所：松江合同庁舎

目的：がんに対する正しい理解とがん患者への正しい認識及び命の大切さに対する理解を深めるとともに、「手引」を活用して、学校におけるがん教育の充実に資する。



対象：中学校、高等学校、特別支援学校の保健体育科担当者【参加者：40名】

内容：①事業説明

②DVDで授業視聴

③講演会「新学習指導要領に基づくがん教育の進め方」

講師：東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一氏

「島根県外部講師リスト」の活用

知事部局の健康推進課がん対策推進室と連携して作成した「外部講師リスト」を年度当初に各学校へ送付した。

「外部講師リスト」を活用した授業の実施が増えるよう、研修会等を通して周知した。また、協力校の実践を実践事例として「Q & A集」に掲載した。さらに、具体的な事前打合せや活用方法等も併せて掲載した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

「外部講師派遣事業」の活用

がん対策推進室が行っている外部講師派遣事業は、学校が保護者を対象としたがんに関する研修会や講演会を開催する際、講師選定や費用を支援する事業である。外部講師リストで講師を選定し、本事業を活用してがん教育を実施する学校もあった。

(2) 協力校における取組

出雲市立第二中学校 「保健体育科（保健分野）での授業」と「外部講師を活用した授業」で実践

○保健体育科（保健分野）

- 1 単元名 がんとその予防
- 2 本時の目標 自分の生活を振り返り、学習した正しい知識や提示された資料をもとにがんの予防方法を考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 3 流れ
 - ①前時までの確認をする。
 - ②がんについてのイメージを書き出す。
 - ③がんの仕組みについて知る。
 - ④資料をもとに予防方法を考える。
 - ⑤自分の生活習慣と比べ、自分に合った予防方法を選択する。
 - ⑥まとめ



○外部講師を活用した授業

- 1 対象学年 第2学年
- 2 外部講師 島根大学医学部附属病院 放射線治療科医師 園山陽子氏
- 3 講演テーマ 「がんを知ろう」
- 4 授業のねらい 普段からがん患者と関わっている医師から、がん検診や治療法について学ぶ。
- 5 外部講師との事前打合せポイント
 - ・学習指導要領やがん教育プログラム、保健体育の教科書等で、中学校のがん教育で取り扱う内容について情報共有する。
 - ・外部講師が伝えたいことや今までの講師経験から話した内容を聞く。
 - ・生徒の実態や、前時の授業からわかる生徒がもつがんについての認識を共有する。

- ・外部講師が作成したパワーポイントを見ながら、意見交換をし、授業の流れを完成させる。
- ・実施する際の講師と授業者の役割分担、時間配分等を確認する。

- 6 内容
- ・がんのしくみについて
 - ・がんの予防方法について
 - ・がん検診と治療について



○職員研修の実施

教職員向け啓発リーフレット「学校におけるがん教育を推進します」（令和2年12月）を活用して、校内研修を実施した。

島根県立隠岐水産高等学校 食育を通じた「がん教育講演会」を実践

○外部講師を活用したがん教育

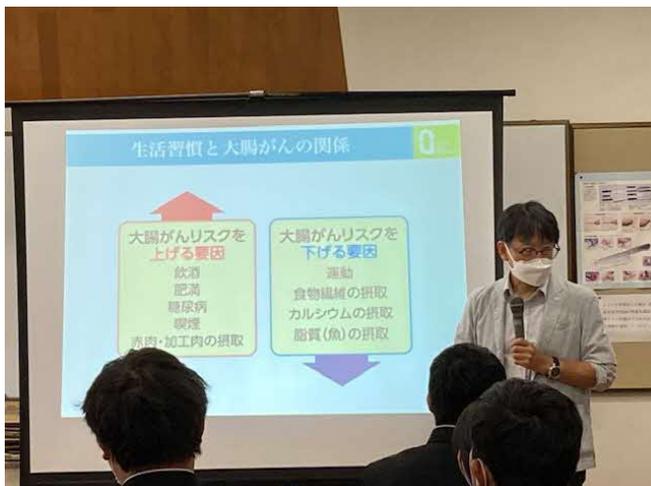
- 1 対象学年 第1学年
- 2 外部講師 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター准教授 比良松道一氏
- 3 講演テーマ 『だから「みそ汁」なんだ！』
- 4 授業のねらい 講話やみそ汁づくりの実践を通して、健康的な生活習慣への意欲を高め、行動変容を促す。
- 5 内容
 - ・がんと生活習慣について（乳がんや大腸がん等 食事との関係）
 - ・みそについて（日本の伝統的な食）
 - ・みそ汁調理（みそ汁をつくる理由）※4種類のみそ

6 外部講師との事前打合せポイント

- ・事前アンケートでこれまで学習したがん教育の内容、生徒の実態について情報共有する。
- ・寮生が多い学校の実態について共有し、授業内容や流れを確認する。
- ・配慮事項について確認する。
- ・調理体験を取り入れた内容にするため、事前事後の授業内容も確認する。
- ・教材で使う地元食材について確認する。
- ・授業中の役割分担、時間配分等、授業の詳細を確認する。

○校内連携

講演会后に、保健部による講演内容や当日の様子を「ほけんだより」に掲載し発信したり、みそ汁に関連した掲示を図書館に展示したりして、講演会の効果を高めた。



2. 事業の達成度について

●協力校における成果

- ・外部講師を活用した授業は、生徒により専門的な知識を身に付けさせることができた。
- ・外部講師との事前の打合せを充実させたことで、ねらいに沿った学習や生徒の実態に合った授業ができた。
- ・一方的に話してもらっただけでなく、授業の途中で事前の授業（保健体育科）を思い出させる場面を設定したり、調理実習を設定したりしたことで、生徒により実践的に考えさせることができた。

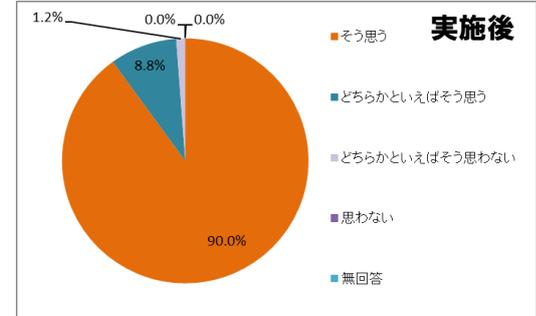
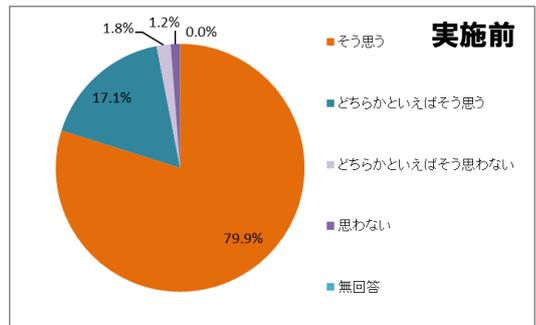
生徒の感想（出雲市立第二中学校）より

- ・がん検診を受けることで、がんを見つけられ、早く治療を受けられるということは知っていたけれど、100%見つけられるのではなく、偽陰性・偽陽性などデメリットもあることがわかった。
- ・正しい生活習慣を続けたり、ワクチンを打ったりすることで、ある程度がんを防ぐことができ、早期の発見や適切な治療で治ることもわかったので、少し恐怖心が和らいだ。

生徒の感想（県立隠岐水産高等学校）より

- ・初めて、みそ汁が、がん予防に役立つことがわかった。昨日、早速みそ汁を親と一緒に作りながら、「みそ汁を飲むとがん予防にも役立つ」ということを話すと、さすがの親も初耳だった。先生のおかげで、役立つことを親にいっぱい話せた。
- ・今回の講演で、身近なみそ汁の意外な効能を知られたので良かった。みそ汁は、毎朝寮で出るのでしっかり飲みたい。

Q.がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育の実施状況について実態を把握し、今後の方向性を探る。
- ・身近に患者がいる病気であるので、直接がんを扱う場合には他の学習とは異なるきめ細やかな配慮が必要となる。配慮事項について、不安があるという学校を多く聞くので、不安解消に向けた取組をしていく。例えば、具体的な方法を情報提供していくなどしていくと、がん教育の授業がより進むのではないかと考える。
- ・引き続き、研修等を活用して、正しい情報や先進事例を積極的に発信していく。
- ・引き続き、がん対策推進室と連携し、外部講師の方々に学校におけるがん教育の進め方、実態、推進方法などについて理解してもらえよう、働きかけていく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・継続して、外部講師を活用するときは、学校が主体であること、打合せや振り返りをする必要があること等、外部講師の活用方法について、外部講師リストとともに周知していく。
- ・がん教育研修会、外部講師養成研修会などの内容について検討していく。
- ・協力校等以外でも取組が広がるように、研修会等の機会を通じて周知していく。（カリキュラム・マネジメントを充実させ、教科等横断的ながん教育の実践をしていく。）

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

ア 構成員 23人

【内訳】

県医師会代表1人、がん専門医1人、大学准教授1人、県薬剤師会学校薬剤師部会代表1人、推進地域学校保健連合会1人、がん経験者1人、PTA2人、校長5人、保健主任2人、養護教諭1人、県健康福祉部1人、推進地域町教委担当者1人、県教委5人

イ 開催時期、検討内容

- 第1回山口県がん教育推進協議会 7月7日(木)
 - ・ 議事
 - 本年度の事業推進計画についての検討
 - 外部講師の活用について(外部講師拡充のための研修会開催) 等
- 第2回山口県がん教育推進協議会 2月(書面開催)
 - ・ 報告
 - 今年度の取組について
 - 推進校の授業実践について
 - 今年度の成果と課題
 - ・ 協議
 - 山口県におけるがん教育の推進を図る手立てについて
 - ・ 協議委員によるがん教育のアンケート

② 教育委員会としての取組

- 推進校に外部講師(がん看護専門看護師、がん経験者)を派遣
- がん教育推進地域(熊毛郡)において教育講演会を開催
 - ・ 教職員を対象として研修会を実施。推進地域である熊毛郡(田布施町、平生町、上関町)の学校保健連合会と連携した研修会を開催する。講師を乳がん体験者コーディネーター 井上裕香子氏に依頼し、「がん患者の私が伝えたいこと」について講演
- 外部講師拡充のためのオンライン説明会の開催
 - ・ 医療関係者、行政関係者、がん経験者やその家族を対象として研修会を実施
 - ・ 本課担当による所管説明と、今年度、外部講師や講演講師を依頼した 和崎美幸氏、井上裕香子氏の事例発表を実施
- 実践事例の周知
 - ・ 今年度推進校の実践事例をWebサイトにて紹介

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 県保健部局との連携

県健康福祉部医療政策課に、「がん教育推進協議会」の委員を依頼し、助言を得るとともに、「外部講師拡充のためのオンライン説明会」開催に向けて、助言や協力を得た。

(2) モデル校における取組

① 推進校（モデル校）

田布施町立麻郷小学校、山口県立田布施農工高等学校

② 公開授業（研究授業）

- 10月5日（水） 田布施町立麻郷小学校（第6学年学級活動 公開授業参加者数15名）

【指導者】 6年生担任、乳がん体験者、養護教諭

【単元名】 がんについて考えよう

【ねらい】 がん患者の体験談を聞くことを通じて、がん患者への共感的な関わり方について考えることができる。

【本時の流れ】

- 1 自分ががんになってしまった場合の気持ちや生活について考える。
- 2 がん患者（家族）の立場に立って、どんな関わり方（言葉かけ・態度等）がよいか考える。
- 3 がん患者の体験談を聞く。
- 4 がん患者の体験談を聞き、感じたことや、がんに向き合う人へのよりよい関わり方について考える。



- 1月26日（木） 山口県立田布施農工高等学校（第1学年保健体育科 授業参加者数15名）

【指導者】 保健体育科教諭、がん化学療法看護認定看護師

【単元名】 現代社会と健康 ～第3節 生活習慣病などの予防と回復（がんの発生と予防）～

【ねらい】 がんの現状を踏まえて、がん患者との関り方について理解し、行動することができる。

【本時の流れ】

- 1 がんについての復習を行う。
 - ① がんの原因について考える。
 - ② がんの治療法について考える。
- 2 がん患者について考える。
 - ・ がんにかかっている人がいたときにどのように接するだろうか。
- 3 患者の状況や心情について考える。
- 4 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。



(3) その他

① 学校におけるがん教育研修会の開催

教職員を対象とした研修会を実施。推進地域である熊毛郡（田布施町、平生町、上関町）の学校保健連合会と連携して研修会を開催。講師を乳がん体験者コーディネーター 井上裕香子 氏に依頼し、「がん患者の私が伝えたいこと」について講演。

② 外部講師拡充のためのオンライン説明会の開催

医療関係者、行政関係者、がん経験者やその家族を対象として研修会を実施。本課担当による所管説明と、今年度、外部講師や講演講師を依頼した 和崎美幸 氏、井上裕香子 氏が事例発表を実施。

2. 事業の達成度について

(1) 協議会の評価について

第2回協議会のアンケートで「協議会として十分な支援を行えたか」の質問に52.2%の方が「はい」と回答された。

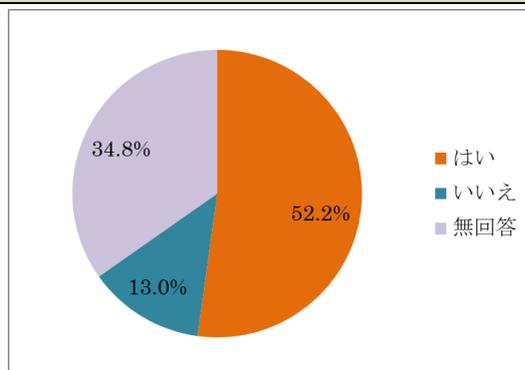
「いいえ」と回答された方からは、

- ・ 実施された学校については成果が上がっていると考えますが、県全体の学校数から考えると実施校は少数であるため。
- ・ HPV ワクチン接種についてやがん検診について学ぶ機会を設定し、がん教育の一助になればと考えていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、行事の内容変更を余儀なくされた。そのため、学校の取組に対する支援を十分に行うことができなかった。

などの意見があった。また、その他の意見として

- ・ 協議会が、学校・医療者・がん経験者をつなぐ「がん教育の窓口」のような場であって欲しい。
- ・ 学習指導要領において新たに明記されたがん教育について、趣旨を踏まえた充実を図ることができるよう、学校と外部講師をつなぐための支援体制整備を進めていただきたい。
- ・ がん教育への協力団体を増やすための取組を通して、がん経験者等の外部講師の発掘を進めていただきたい。学校が講師を見つけるのは、個人のプライバシーに関わる部分が大きいため難しい。
- ・ 国や県が作成したリーフレットを効果的に利用している授業展開など、保健の授業の中で活用しやすい展開も好事例として紹介しないと、学校で普及しにくいのではないのでしょうか。

という意見があった。



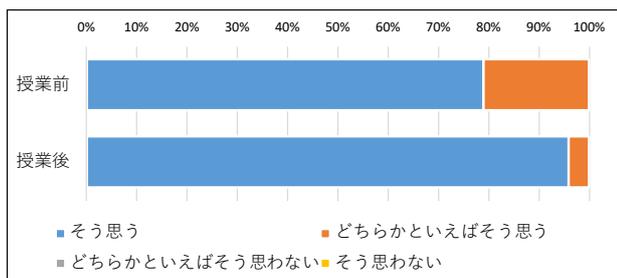
(2) 児童生徒の事前・事後アンケート結果

アンケートの結果から、授業前からがん教育は重要であり、健康な生活を送るために役に立つという問題に対して、肯定的な意見が多かったが、授業後には「そう思う」と回答した生徒が10%以上向上している。授業を通して、児童生徒ががんの学習の重要性や有用性を感じ取る結果となった。

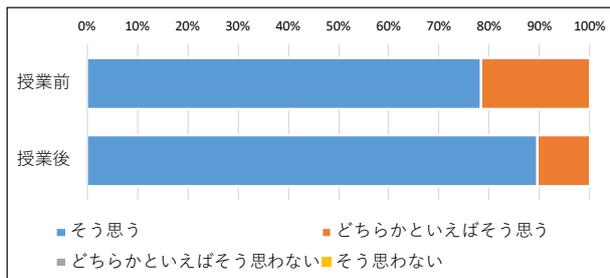
また、治療法に関する質問では、授業後の「そう思わない」の割合が、50%を超えている。外部講師による丁寧な説明もあり、正しい知識が得られた生徒も多くいるが、一方で、30%を超える生徒は医師が治療法を決めると認識していた。

なお、がんと健康について、家族と語ろうとする児童生徒の割合が、授業後に「そう思う」の回答が増えている。児童生徒が学校でがんについて学んだ内容を、家族に伝えることで、「がんに対する理解の促進」につながっていくことが期待される。

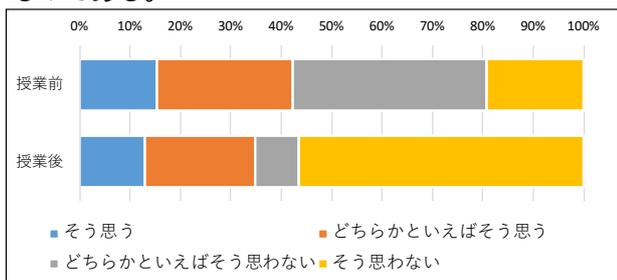
〈1-a〉
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。



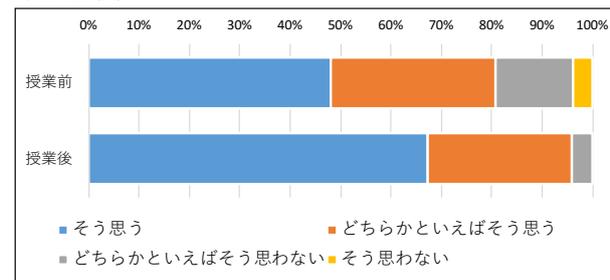
〈1-b〉
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。



〈3-e〉
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。



〈3-h〉
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。



3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○ 外部講師を活用したがん教育の拡充

今年度までは、推進地域を指定し、その地域の小、中、高等学校で公開授業及び研究授業を実施してきたが、第1回推進協議会の中で、委員から、より多くの学校でがん教育を実施できるよう、外部講師の拡充とともに、実施校を増加することについて意見があった。

来年度、多くの学校でがん教育が推進できるよう、推進校の選定について検討し、展開していきたい。

○ 外部講師拡充のための説明会の内容の充実

説明会後の感想の中で、「参加者同士で情報交換する場面が欲しかった」との意見があった。オンライン開催であっても、グループ分けをして情報交換をする場面を設定することは可能なので、実施していきたい。

また、説明会后、医療関係者や各市町のがん対策担当課から、「学校に対してどのようにアプローチしていけばよいか分からない」と相談があった。そのため、来年度は、学校にも説明会への参加を呼びかけ、学校と外部講師が直接話をするところができる場を設けていきたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○ 外部講師との連携について

今年度、外部講師をできる方が増えたことから、今後は、より学校と外部講師が連携してがん教育に取り組むことができる枠組みの作成。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で16名

香川県学校医代表（小児科医）、香川県医師（呼吸器内科兼総合内科）、
香川大学医学部附属病院緩和ケア認定看護師、香川県小学校教育研究会（学校保健部会長）、
香川県中学校教育研究会（保健体育部会長）、香川県高等学校教育研究会（保健体育部会長）、
香川大学教育学部（大学教授及び准教授）、高松市保健所健康づくり推進課（係長）、
香川県PTA連絡協議会代表（副会長）、香川県看護協会代表（専務理事）、
香川県健康福祉部健康福祉総務課代表、香川県教育委員会事務局保健体育課（課長 外3名）

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（8月30日：オンライン会議）

- ・令和4年度香川県がん教育協議会設置要綱と委員の紹介
- ・令和3年度がん教育総合支援事業における成果と課題の報告
- ・令和4年度香川県教育委員会主催の香川県がん教育総合支援事業計画の説明

○第2回協議会（2月2日：集合型会議）

- ・令和4年度GT派遣事業の実践報告
- ・がん教育研修会（オンデマンド研修）の報告
- ・がん教育の成果と課題の報告
- ・令和5年度がん教育総合支援事業（案）の説明

② 教育委員会としての取組について

○がん教育研修会（オンデマンド研修）

本研修は新学習指導要領に対応したがん教育の実施に向けて、がんに関する専門職であるゲストティーチャー（以下、「GT」とする）及び教職員等に対し、本支援事業の流れや学校におけるがん教育を進めるための教材、留意事項等について研修を行い、がん教育の普及・啓発を図ることを目的として実施した。

<第1回>

- ・日時：令和4年9月5日（月）～令和5年2月10日（金）
- ・対象：県内GT（21名）
- ・演題：「がん教育GT派遣事業における外部講師に求められるもの」
- ・演者：香川県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 中山 香菜子
- ・内容：学校におけるがん教育の基本的な考えや目標、新学習指導要領におけるがん教育の取り扱い、授業で使用する教材等、GT派遣事業及び学校との事前打合わせの流れ 等

<第2回>

- ・日時：令和5年1月12日（木）～令和5年3月31日（金）
- ・対象：県内公立学校の教職員、外部講師、がん教育協議会委員
- ・演題：「がん教育視聴覚教材等の活用について」
- ・演者：香川県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 中山 香菜子

- ・内容：学校におけるがん教育の基本的な考えや目標、令和4年度がん教育授業実践の紹介、授業で使用できる視聴覚教材等、視聴覚教材を使用する際の留意事項 等

【映像教材名】

- ・「がん経験者の思いから学ぶがん教育（映像教材）①」（約6分）
- ・「がん経験者の思いから学ぶがん教育（映像教材）②」（約5分）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○香川県看護協会との連携

県教育委員会では、今年度から県看護協会の協力を得て、希望があった公立学校(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)に、がんに関する専門家である看護師を GT として派遣することとした。年度初めに、香川県看護協会と本事業の流れや派遣調整方法等について打合わせを行い、GT の候補者として、県内の認定看護師や専門看護師等を紹介してもらった。

○香川県健康福祉部健康福祉総務課との連携

県教育委員会では、がん経験者による体験談の動画を撮影し、視聴覚教材の開発に取り組んだ。その際、健康福祉総務課に依頼し、視聴覚教材の開発に協力可能な講師の候補者について情報を提供してもらった。

(2) GT 派遣事業の取組

県内公立学校に対し、がん教育の授業や研修会等に GT を派遣する事業案内を行い、希望調査を行った。がん教育の授業は、香川県が作成している「がん教育の手引き」や文部科学省の教材等（併用可）を活用し、実施することとした。

授業者と GT の打合わせ時に「事前打合わせに関する確認書」等を活用し、使用する教材や GT の講話内容、授業内での役割分担を十分に確認し、授業等で実践することとした。

① 実施校

- ・小学校 9校、参加児童人数 498名
- ・中学校 10校、参加生徒人数 1,319名

②訪問した学校の授業内容

<訪問校①>

- ・学 校 名：宇多津町立宇多津小学校
- ・授 業 日：令和4年11月28日（月）
- ・学 年：6年 59名
- ・授業時間：1時間
- ・テ ー マ：「がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために」



GTによる説明の様子



グループでの意見交換

	学習内容・活動内容
導入	・「ガンダーをやっつけろ！」の紙芝居を見て、「がん」と自分たちの生活を結び付けて考える。
展開	・GT（看護師）の説明を聞いて、「がんの種類」や「その対策」について理解する。 ・「がん博士」（動画資料）を視聴し、生活習慣に気を付けて生活することの大切さを理解する。 ・がん患者の人の話を聞いて、「命の大切さ」を実感する。
終末	・生活習慣に気を付けて、がんの予防をすることが大切であると学び、自分や家族などの身近な人の「命」を大切にすることを学ぶ。

<訪問校②>

- ・学 校 名：高松市立太田中学校
- ・授 業 日：令和4年12月6日（火）
- ・学 年：2年 220名
- ・授業時間：1時間



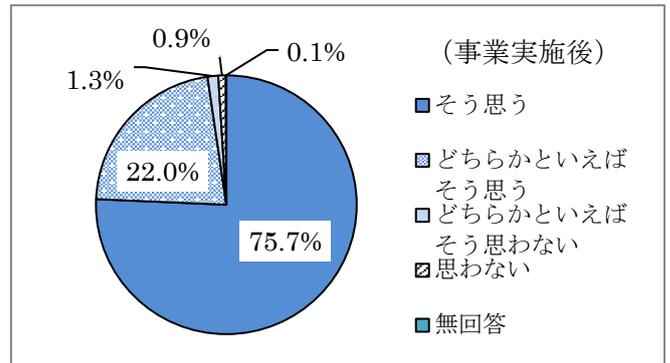
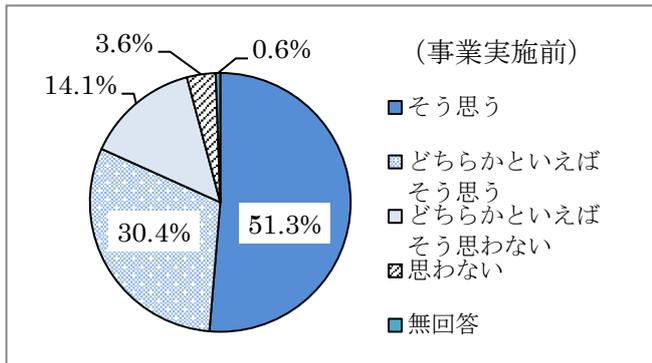
GTによる説明の様子

・テーマ：「令和4年度2年生健康教育 がん教育」

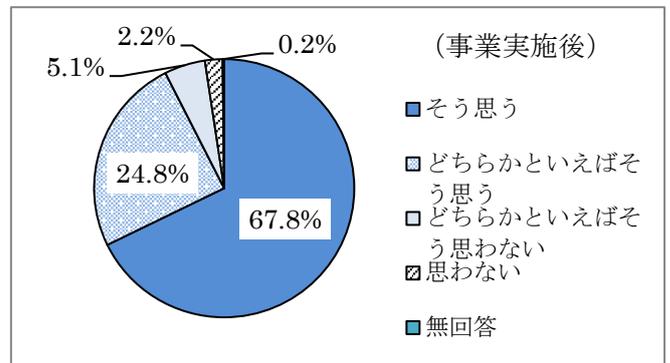
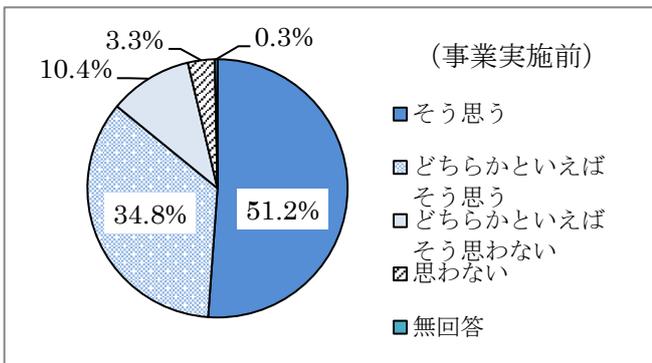
学習内容・活動内容	
導入	・「がん〇×クイズ」に取り組み、がんに対する関心を高めて「がんに対する正しい知識を理解し、これからの自分の生活行動について考えよう。」と学習課題を設定する。
展開	・「がんちゃんの冒険」(動画資料)を視聴し、生活習慣に気を付けて生活することの大切さを理解する。 ・GT(看護師)の説明を聞いて、「がんの種類」や「その原因及び対策」について理解する。
終末	・自分へのメッセージを書いて、自分や家族などの身近な人をがんから守るために大切なことを学ぶ。

2. 事業の達成度について

(1) 実践校の児童生徒アンケート結果より(抜粋)【回答人数】事前 1,781人 事後 1,724人
【日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う】



【がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う】



児童生徒へのアンケート結果から、「早期発見すれば、がんは治りやすい」(知識)という質問に対し、「正しい」と答えた割合が7.0ポイント増加し、全体の98.6%を占めていた。また、「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」(意識)という質問に対し、「そう思う」と答えた割合が24.4ポイント増加した。同様に「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」(意識)という質問に対し、「そう思う」と答えた割合が16.6ポイント増加した。これらの結果からも「がん教育の目標である「がんについて正しく理解することができるようにする」及び「健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」について、概ね達成できていることが伺えた。

(2) 実践校の報告書より

「GTによる専門的な話を聞くことにより、がんに関する正しい知識を、より自分の生活に結び付けて考えることができた」という内容の記述が見られ、外部講師の効果的な活用が伺えた。

○児童生徒の感想

・「がんは怖い病気だと思っていたが、早期発見により治すことができると分かったので、自分も予防していきたい」という記述が多くあり、授業前と授業後の考えに変化が見られたことが分かった。

○保護者との情報共有

- ・授業で学んだことを家庭に持ち帰り、子どもから保護者や大切な人へがん教育に関する理解を広げていくことや、保護者に実際に学習の様子をみていただくことで、共通理解を得ながら進めていくことができていた。

(3) GTのアンケート結果より（21名に実施）

「学校との事前打合わせについてうまくできた」の質問に「そう思う・ややそう思う」と回答した人の割合は91.3%、「授業での教員との連携についてうまくできた」の質問に「そう思う・ややそう思う」と回答した人の割合は87.0%であったことから、概ね、教員との十分な連携のもと外部講師を活用したがん教育の実施が達成できたと考えられる。

(4) 協議会の評価について（第2回協議会のアンケート結果より）

質問：【協議会として十分な支援を行えたか】

回答：「はい」 11名 「いいえ」 1名（県教育委員会4名を除く計12名）

医療、教育、保護者等の各関係者及び教育委員会がそれぞれの立場から意見交換し、がん教育の推進に向けて協議する場は大変意義のあるものであり、今後、協議会の充実も図っていきたい。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○今後の課題

1 講師選定やGTへの依頼方法

- ・今年度から香川県看護協会に協力依頼し、講師の選定及び派遣の調整を行ったが、昨年度より派遣校数が増加したこともあり、派遣申請の取りまとめや日程調整がかかった。今後、学校とGTへの派遣調整及び派遣依頼が円滑に進められるよう、関係機関と連携し、派遣体制の整備を図っていく。

2 GTが授業で使用できる教材の確保

- ・授業で活用する教材について、事前にGTが確認できないという課題があった。GTが事前に教材を確認しておくことで、事前打合わせや授業準備が円滑に行えると考えられる。今後、事前にGTへの教材貸出ができるよう関係機関と協力し、教材の貸出方法や最新の情報提供等について支援体制を考えていく。

3 GT派遣事業の普及

- ・今年度、昨年度の5校から19校へ派遣校数の拡大ができたが、小学校と中学校のみの実施となった。今後、高等学校及び派遣実績のない学校に対して優先的に派遣を行い、がん教育の普及を図っていく。また、学校におけるがん教育の推進に向け、本事業の周知方法の検討を行う。

4 教職員へのがん教育実践に関する研修時期の見直し

- ・GTのアンケート結果から、学校によって教職員のがん教育への理解に差があることが明らかになった。今年度、事業実施前にGTのみを対象としてがん教育研修会を実施し、教職員に対しては1～3月に実施したため、GTと教職員の共通理解が図られないケースがあった。今後、教職員とGTが事前打合わせや配慮事項等の共通理解を持って臨めるよう研修時期を検討する。

5 がん教育研修会の内容の充実

- ・事前打合わせの内容が授業に反映されていない学校があったため、今後、実践校からの好事例紹介をする等工夫することで、教員や外部講師の資質及び指導力向上を目指し、研修内容の充実を図る。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・小学生に向けたがん教育の教材が少ない課題を受けて、今年度、関係機関と連携し、小学生対象の香川県の視聴覚教材開発に取り組んだが、今後より多くの学校で活用できるよう教材の普及に努めていきたい。
- ・GT派遣事業を活用した学校が、その後、がん教育をどのように展開していったのか把握し、他校のがん教育推進に役立てていきたい。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

県内の学校において、がんに関する教育を推進するための支援体制や具体的な取組についての検討及び普及啓発を行うための方策等を関係者が協議した。

1 構成員

全体で8名

(内訳：学識経験者（大学教授）1名、医療関係者（がん専門医・放射線診断部長）1名、がん患者会関係者1名、学校関係者（県PTA連合会副会長、モデル校学校長）3名、モデル校所管市町教育委員会1名、県保健福祉部健康増進課担当係長1名)

No	氏名	所属及び役職	備考
1	日野 克博	学識経験者	愛媛大学教育学部教授
2	菅原 敬文	医療関係者	四国がんセンター医師
3	吉森 公恵	がん患者会関係者	おれんじの会
4	梶原 玉男	保護者代表	愛媛県 PTA 連合会副会長
5	馬越 吉章	推進モデル校校長	今治市立南中学校
6	村井 浩昭	推進モデル校校長	愛媛県立吉田高等学校
7	山川 博一	関係市町教育委員会	今治市教育委員会学校教育課
8	三宅 宏和	行政関係者	県保健福祉部健康増進課

2 開催時期・検討内容

【第1回がん教育推進協議会】オンライン開催

9月30日（金）14：00～15：00

協議内容

- ・ 令和4年度事業概要について
- ・ 推進モデル校での具体的な進め方について
- ・ 各学校種におけるがん教育の取扱いについて
- ・ がん教育指導参考資料等の活用方法について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・モデル校関係者等 8名】

【第2回がん教育推進協議会】オンライン開催

1月30日（月）14：00～15：30

協議内容

- ・ 令和4年度事業報告
- ・ がん教育モデル校における実践報告
- ・ 成果と課題
- ・ 学校における今後のがん教育の進め方について
- ・ 各機関との連携について

② 教育委員会としての取組

○ 各学校におけるがん教育の推進に向けて

県内の教職員を対象とした「がん教育研修会」と、日本学校保健会の文部科学省補助事業「保健教育推進研修会」を重ねて開催し、文部科学省の横嶋教科調査官より「学習指導要領に基づく保健教育の考え方・進め方」「がんに関する内容の充実」について御講演いただいた。

がん教育推進モデル校（中学校1校、高等学校1校）において、保健体育科教員と外部講師がチーム・ティーチングを行う様子を公開し、県下各校種からの参加者にモデルプランを示した。

また、各学校における、より積極的ながん教育の展開へとつなげるため、モデル校における取組をまとめたリーフレットを作成し、県内の中学校と高等学校（特別支援学校含む）に配付した。

○ 教育活動全体におけるがん教育に向けて

専門医、がん患者会関係者等と連携したがん教育を進める中で、文部科学省や県が作成した資料の活用方法や、効果的な提示の方法等について協議し、公開授業等を通してモデルプランを提案した。

また、公開授業後の研究協議において、保健体育科以外の取組や地域・保護者との連携等について参加者と情報交換を行い、教育活動全体におけるがん教育へとつなげた。

○ リーフレットの作成

推進モデル校における講演会や授業の様子、参観者と生徒の感想等をまとめたリーフレットを作成し、県内の中学校、高等学校（特別支援学校含む）に配付した。



保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健福祉部や四国がんセンター、がん患者会と連携し、外部講師の育成や研修会の開催などについて協議した。

また、愛 GIVER Project 募金活用事業として愛媛新聞社が主催する「がん教育外部講師育成研修」受講者が、推進モデル校における講演会や公開授業を参観し、外部講師と連携した取組について理解を深めるとともに、県内におけるがん教育の現状と今後の課題や方向性について伝える場となった。

(2) がん教育推進モデル校における取組

【今治市立南中学校】

講演会

打合せ	令和4年11月 1日(火) オンライン開催
開催日	令和4年11月 9日(水)
対象	第2学年、教職員
講師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏

公開授業

開催日	令和4年11月25日(金)
学年・組	第2学年2組
教科	保健体育科
授業内容	がんについての正しい知識を身に付け、自分にできる予防について考えよう。
授業者	保健体育科 教諭 田窪 大介 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



【愛媛県立吉田高等学校】

講演会

打合せ	令和4年10月17日(月) オンライン開催
開催日	令和4年10月24日(月)
対象	全校生徒、教職員
講師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏



公開授業

開催日	令和4年11月15日(火)
学年・組	第1学年電気電子科
教科	保健体育科
授業内容	がんと共に生きる社会を目指して
授業者	保健体育科 教諭 土居 浩二 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



2. 事業の達成度について

[指導参考資料活用における成果]

- ・ 文部科学省や県が作成した参考資料を活用することで、科学的な根拠や情報に基づく基本的な内容や共通内容を具体的に示すことができるため、各学校で取り組みやすくなり、がん教育の普及啓発ができた。

[外部指導者の活用における成果]

- ・ 医療関係者とがん患者会関係者の協力を得て、モデル校において、がんセンター医師及びがん経験者の2名を講師とした講演会を開催し、推進モデル校の希望する内容について双方で系統性のある講演会を実施できた。また、講演を行ったがん経験者が、その後の授業の外部講師となり、知識と生活をつなげる役割を担うことができた。

[がん教育推進体制における成果]

- ・ 関係機関等（がん診療連携拠点病院、がん患者会、保健福祉部）との連携により、多面的ながん教育を推進することができた。
- ・ 「がん教育推進モデル校」における公開授業後の研究協議の中に、外部講師の講話や質疑応答の時間を設定し、参加者の研修の機会を確保できた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ がん教育の必要性等の意識啓発、学校における系統的な指導の充実を図るため、引き続き、教職員を対象とした研修を行う。なお、研修会の開催方法は、大人数による参集型の一斉研修会以外にも、各地区別や校種別等、状況に応じてより実践につながる方法を検討していきたい。
- ・ リーフレットや研修会等を通して、推進モデル校が実践した具体的事例を普及啓発し、各学校が取り組みやすいがん教育のモデルプランの提示を行っていきたい。
- ・ 家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、治療中の生徒等への具体的な配慮例について紹介することで、各校における「実態に応じた取組」に繋げ、教師も生徒も安心して授業を進めることができるよう研修の充実を図る。
- ・ 外部講師の積極的な活用につながる体制を整備していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師を活用した授業実践

令和3年度の「がん教育実施状況調査」では、外部講師を活用したがん教育を実施した学校は、小学校272校中6校・中学校129校中7校・高等学校53校中1校という結果であった。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外部講師との連携は難しい面もあった中ではあるが、今後、積極的に情報発信をしていき、各学校における実践へと繋げていきたい。なお、令和4年度調査は、現在取りまとめ中である。

系統的ながん教育の実施

小学校の「病気の予防」、中学校の「健康な生活と疾病の予防」、高等学校の「現代社会と健康」の中で取り扱う生活習慣病やがんについて、他校種の学習内容等を意識しながら系統的に取り組むことができるよう公開授業等において啓発していきたい。

令和4年度

がん教育総合支援事業 事業成果報告書

地方公共団体名	福岡県
---------	-----

1. 事業の具体的内容について

【教育委員会における取組】

① がん教育推進委員会

○ 令和4年度福岡県がん教育推進委員 構成員

県医師会の医師1人、大学教授2人（がん専門医師1人含む）、保健所長（保健監）1人、県保健医療介護部がん感染症疾病対策課1人、がん患者団体代表1人、県小学校体育研究会会長（学校長）1人、県中学校保健体育研究会会長（学校長）1人、県高等学校保健体育研究部会会長（学校長）1人、県高校教育課指導主事1人、県義務教育課指導主事1人、教育事務所指導主事1人、事務局（体育スポーツ健康課）5人

○ 検討時期、内容

第1回協議会：令和4年9月15日（木）

【説明】 ・平成26年度から令和4年度の取組及び令和4年度の事業について
・がん教育推進委員会について

【協議】 ・がん教育外部講師派遣事業について

第2回協議会：令和5年2月15日（水）

【報告】 ・外部講師派遣事業について
・がん教育指導者研修会について

【協議】 ・令和5年度がん教育指導者研修会について

② がん教育指導者研修会

○ 期日：令和4年10月28日（金） 参集及びオンライン研修【参加人数：179名】

○ 目的：●がん教育についての指導者の理解を深め、がん教育の充実に資する。

●がん教育指導資料の内容について普及・啓発を図る。

○ 内容：●模擬授業

（NPO法人キャンサーサポート 副理事 中原 美夏 氏）

●学識経験者による講演

（日本女子体育大学 教授 助友 裕子 氏）

○ 参加者：教職員及びがん教育関係者

③ 外部講師派遣事業

市町村立学校及び県立学校へ外部講師を派遣し、がん教育を推進した。令和4年度は、小学校18校、中学校4校、高等学校7校の計29校へ派遣することができた。派遣の概要は、以下の通りである。



	実施期日	学校名	対象	講師	内容
1	9月26日	新宮町立新宮東小学校	保護者25名、 教職員3名	がん経験者 看護師	・がんの原因や症状 ・支えてくれる人たちの ありがたさ
2	9月29日	県立田川科学技術高等学校	生徒470名、 教職員70名	がん経験者 看護師	・がんの予防法 ・早期発見の重要性 ・命や時間の大切さ

3	10月3日	朝倉市立金川小学校	児童13名、 教職員3名	がん経験者 看護師	・がんの原因や症状 ・支えてくれる人たちの ありがたさ
4	10月11日	篠栗町立勢門小学校	児童144名、 教職員6名	がん経験者 看護師	・がんという病気と予防 ・命の大切さ、人のあたたかさ
5	10月18日	古賀市立千鳥小学校	児童64名、 教職員4名	がん経験者 看護師	・早期発見の大切さ ・生きること、周りの人の 支えの大切さ
6	10月25日	宇美町立宇美小学校	児童95名、 教職員7名	がん経験者 看護師	・がんの原因、予防法 ・病気に立ち向かうときに 大切なこと
7	10月25日	飯塚市立大分小学校	児童25名、 教職員2名	がん経験者 看護師	・がん予防の生活習慣 ・生きていることの喜び、 人の温かさ
8	11月1日	新宮町立新宮小学校	教職員56名	がん経験者 看護師	・がん教育模擬授業 ・命の大切さを実感させる がん教育の在り方
9	11月4日	宇美町立宇美南中学校	生徒88名、 教職員4名	がん経験者 看護師	・がんの原因、現状 ・命の大切さ、時間の大切 さ、人のあたたかさ
10	11月8日	新宮町立相島小学校	児童8名、 教職員1名	医師	・がんのでき方、原因 ・予防のための生活習慣、 検診の大切さ
11	11月11日	篠栗町立北勢門小学校	児童102名、 教職員4名	がん経験者 看護師	・がんの予防法 ・命の大切さ、時間の大切 さ、人のあたたかさ
12	11月11日	宇美町立宇美東中学校	生徒104名、 教職員7名	がん経験者 看護師	・がんができる仕組み ・身近な人ががんになった ときの関わり
13	11月15日	新宮町立新宮北小学校	教職員55名	がん経験者 看護師	・がん教育の必要性 ・がん患者についての認識 を深める重要性
14	11月29日	古賀市立花鶴小学校	児童117名、 教職員5名	がん経験者 看護師	・がんの予防に向けて ・生きることの希望、命の 大切さについて
15	11月30日	県立福岡高等学校	生徒398名、 教職員10名	医師	・がん発生のメカニズム について ・免疫治療について
16	12月5日	筑前町立三輪中学校	生徒124名、 教職員10名	医師	・早期発見、早期治療 ・生活習慣とがんの関わり について

17	12月6日	古賀市立古賀東中学校	生徒 98 名、 教職員 6 名	がん経験者 看護師	・がんの予防法 ・前向きに生きること、 支え合うことの重要性
18	12月14日	県立春日高等学校	生徒 420 名、 教職員 15 名	医師	・様々な治療法と緩和ケ アなど、最新治療 ・がん患者への理解
19	12月14日	新宮町立立花小学校	児童 18 名、 教職員 3 名	がん経験者 看護師	・がんが発生する仕組み ・早期発見の重要性 ・命の大切さ
20	12月14日	古賀市立古賀西小学校	児童 101 名、 教職員 7 名	がん経験者 看護師	・がんが発生する仕組み ・がん患者への関わりと 周囲の支えの大切さ
21	1月20日	県立福岡講倫館高等学校	生徒 17 名、 教職員 4 名	がん経験者 看護師	・がんの原因、発生 ・命の大切さ、人のあた たかさ
22	1月23日	篠栗町立篠栗小学校	児童 76 名、 教職員 4 名	がん経験者 看護師	・がんという病気 ・生きることの大切さ、 すばらしさ
23	1月23日	春日市立春日南小学校	児童 126 名、 教職員 5 名	がん経験者 看護師	・がんの仕組みと予防法 ・身近な人ががんになっ たときの関わり
24	1月26日	県立玄洋高等学校	生徒 15 名、 教職員 2 名	がん経験者 看護師	・がんが発生する仕組み ・命の大切さ、毎日の生 活を大切に生きること
25	2月3日	糸島市立福吉小学校	児童 30 名、 教職員 3 名	がん経験者 看護師	・がんの仕組み、予防法 ・早期発見の大切さ ・命や時間の大切さ
26	2月4日	古賀市立青柳小学校	児童 47 名、 保護者 36 名、 教職員 3 名	がん経験者 看護師	・がんの種類、原因、予防 の仕方 ・周囲の支えの大切さ
27	2月6日	みやま市立桜舞館小学校	児童 40 名、 教職員 4 名	がん経験者 看護師	・早期発見の重要性 ・がん患者への関わり ・毎日の生活への感謝
28	2月8日	県立嘉穂東高等学校 (定時制)	生徒 14 名、 教職員 3 名	がん経験者 看護師	・がんのでき方、原因 ・自他の命の尊さ、毎日 の生活の大切さ
29	2月10日	県立三潴高等学校	生徒 203 名、 教職員 35 名	がん経験者 看護師	・がんが発生する仕組み ・がん患者への関わりと 周囲の支えの大切さ

④ 保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健医療介護部がん感染症疾病対策課が実施している、公立中学校へ「がん教育を通じた大切なひとからのメッセージカードによるがん検診受診勧奨事業」の実施について協議を行うなど連携を図った。

2. 事業の達成度について

① がん教育推進委員会

成果：がん教育外部講師派遣やがん教育指導者研修会の実施について、様々な立場の委員との協議により、事業の充実を図ることができた。特に、外部講師派遣事業については、委員会の中でも多くの意見をいただくとともに、医療関係、がん教育関係団体の協力のもと、派遣校数の増加につなげることができた。本県のがん検診受診率等の現状と照らし、がん教育の重要性を再認識するとともに、今後の取組について課題を共有することができた。

<推進委員会後アンケートの自由記述>

- ・ がん教育が適切に行われているかを評価し、さらなる発展につなげていくことやがん教育に携わる人材育成を行う方法、また教育方法を検討することが重要。
- ・ 予算が限られている状況では対面での活用は学校数が限られるため、オンラインを活用したスキームづくりを推進委員会で構築していく。

② がん教育指導者研修会

成果：体育科・保健体育科をはじめ、道徳科、特別活動等における指導について、年間指導計画に基づく指導のあり方や、個別に行う配慮の具体について普及・啓発を図ることができた。

<研修後アンケートの自由記述>

- ・ 心が震えるお話ばかりで、かつ教員の立場からは伝えられない内容だったので、ぜひ所属校にも招聘し講演や授業をしていただきたいと思った。
- ・ 様々なデータや事例などをもとにお話いただき、すぐに授業に活かせる内容ばかりだった。同僚の先生方にも伝えていきたいと思った。

③ 外部講師派遣事業

成果：実施校（小学校18校、中学校4校、県立高等学校7校）において、医療従事者やがん経験者等による授業や講演を通して、正しい知識や健康・命の大切さ、がん経験者等に対する正しい認識を持たせることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

<令和4年度の実践から>

○「福岡県がん教育指導資料集」（令和元年度各学校へ配布）の内容を周知するとともにその活用を促す。

→「福岡県がん教育指導資料集」について、改めて各種研修会等での周知を徹底する。特に、学校でがん教育を行う際には、年間指導計画に基づき、体育科・保健体育科の内容と他の教科の内容とを関連付けて行うことや、配慮が必要な児童生徒への配慮の具体について、資料集を参考に取組を進めるよう普及を図っていく。

○外部講師の有効活用を促す。

→外部講師任せの授業や講演会となっている学校もあるため、ねらいに合わせて、学校がイニシアチブをとりながら、外部講師を効果的に活用する必要がある。

→がん教育指導者研修会において、外部講師の活用の在り方について具体例を取り上げて研修を行う。

<令和5年度の取組>

令和5年度は、「がん教育等外部講師連携支援事業」の申請を行い、上記の課題について解決に向けての方策を示すために、下記を実施する。

○がん教育推進委員会の設置（年2回開催）

○教職員等を対象とした研修会の実施

○外部講師派遣事業の実施回数は33校を予定（小・中学校16校、県立学校17校）

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

1 協議会について

1. 構成員

全員で12人

がん専門医1人、学校医1人、がん患者サポートNPO法人1人、PTA代表1人、学識経験者（短大教授）1人、がん患者の会1人、市町教育委員会担当者1人、推進校校長2人、県健康福祉政策課1人、教育事務所1人、県保健体育課1人

2. 開催時期、検討内容

- ・第1回（8月31日）県内におけるがん教育の推進に向けた計画の検討のため協議会を開催した。
 - 令和4年度文部科学省がん教育総合支援事業の説明
 - 令和4年度佐賀県がん教育の取組について説明
 - 令和4年度がん教育に関する計画について協議
 - 令和4年度各推進校の取組について説明・協議
- ・第2回（2月6日）県内におけるがん教育推進事業についての成果報告と来年への課題について協議
 - 令和4年度佐賀県がん教育に関する実施状況報告
 - 令和4年度がん教育推進校の実践報告
 - 令和4年度の取組について協議
 - 令和5年度の取組（県としてのがん教育の取組・推進校の取組・研修会）について協議

② 教育委員会としての取組

- ・県教育委員会として、令和3年度に作成した「がん教育教材パッケージの動画」を動画サイトにアップし、様々な学校が、適切な時期に適切な内容でがん教育を行える環境を充実させた。
- ・県北部地区を推進地域として推進校を選定し、教科横断的な取組、地域の医師会等地域と連携したがん教育の取組を模索した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・公益財団法人佐賀県国際重粒子線がん治療財団と連携し、外部講師としてがん専門医の派遣を依頼した。
- ・がん診療連携拠点病院と連携し、外部講師として腫瘍専門医や緩和ケア担当医の派遣を依頼した。
- ・NPO法人クラブサポートと連携し、がん経験者を外部講師として派遣した。
- ・公益財団法人佐賀県健康づくり財団ピアサポーターと連携し、外部講師としてがんと闘った経験を活かし、がん患者やその家族を支援する相談員を外部講師として派遣した。
- ・県北部の医療機関と連携し、外部講師としてがん専門医の派遣を依頼した。

(2) モデル校における取組

1 唐津市立成和小学校

1. 研究テーマ「健康について考え、よりよい生活を築こうとする児童の育成」

2. 目指す児童像：

- ・がんなどの病気について正しく理解し、望ましい生活習慣を身につけ生活しようとする児童。
- ・健康といのちの大切さを理解し、主体的に自己や他者の在り方や生き方を考えようとする児童。

3. がん教育実践カリキュラムの作成

4. 具体的実践事例

①授業実践

小学 1 年道徳「ハムスターの赤ちゃん」(どうぶつのいのち)：国語・生活・特活とも関連

小学 2 年学活「かむことのひみつをさぐろう」：生活・道徳とも関連

小学 3 年体育(保健)「けんこうな生活」：道徳とも関連

小学 3 年道徳「お父さんからの手紙」：保健とも関連

小学 4 年体育(保健)「よりよく成長するための生活」：理科・道徳とも関連

小学 5 年体育(保健)「自分の生活習慣を見直そう」：家庭・理科・道徳・総合とも関連

小学 6 年体育(保健)「生活習慣病を予防しよう」：家庭・理科・道徳とも関連

特別支援学級自立活動「I 型糖尿病について知ろう」

②がん教育に関するアンケートの実施と児童の意識の変容に関する分析

③外部講師の講演を通したがん教育講演会(小学 5・6 年対象)

11 月 7 日佐賀大学医学部附属病院小児科医の講演

「2 人に 1 人はがんになる」「ネットのがん情報は 3 分の 2 が間違い」「佐賀県はがん発症率が全国トップクラス」という深い内容もありながらも、クイズ形式やアニメを用いた講演で児童が自分を見つめ直す機会となった。

④外部講師の講演を通したがん教育講演会(職員対象)

11 月 22 日公益財団法人佐賀県国際重粒子線がん治療財団理事長の講演

小学生へのがん教育の必要性と発達段階に応じた学習内容の工夫について

5. 取組の成果と課題

- ・がん教育実践カリキュラムを作成したことで、実施すべきことが明確となり、各自が計画的に取り組めた。
- ・児童と教師がより良い方向へ変容した。
- ・外部講師や養護教諭、栄養教諭との連携により健康教育が充実した。

2 唐津市立第五中学校

1. 研究テーマ「がんについての学びを通して、自他の健康と命を大切にできる態度を育む」

2. 目指す生徒像

- ・がんについて正しい知識を身に付け、健康の保持増進に努める。
- ・がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深め、互いに支え合い、共に暮らしていこうとする。
- ・健康と命の大切さについて主体的に考え、自分の生活習慣を改善していく。

3. 具体的実践事例

①外部講師の講演を通したがん教育講演会(中学 3 年対象)

10 月 28 日薬物乱用防止教室「薬物乱用と健康」。学校薬剤師を外部講師として依頼した。健康な生活を送るためにも自分の意志を持ち、行動できる力が必要ということを理解する機会となった。

②外部講師の講演を通じたがん教育講演会（中学 1 年対象）

11 月 2 日防煙教室「タバコと肺がんについて」。唐津赤十字病院の医師を外部講師として依頼した。タバコを吸うことで、肺がんのリスクを高めることや肺だけでなく、肺以外のがんのリスクも高めることなど、データを示しながら説明され、生徒の理解は深まった。

③授業実践（1 時間） 特別活動（中学 1 年・2 年・3 年対象）

11 月 9 日文科省「がん教育推進のための教材」を使って、がんの基礎知識を学んだ。

④外部講師の講演を通じたがん教育講演会（中学 2 年対象）

11 月 11 日がん教育講演会「がんはなぜ怖いのか～早期発見が大事な理由～」。唐津赤十字病院の医師を外部講師として依頼した。がんの発症までの経緯について、がんになった場合の治療法、早期発見・早期治療や予防のための望ましい生活習慣についてなど、専門医の視点からスライド資料を用いた内容だった。

⑤授業実践 道徳（中学 2 年対象）

11 月 16 日道徳「命をみつめて」右大腿骨肉腫を患った中学 2 年生（当時）が、生きる希望を失わずに病気と必死に闘ってきたことや弁論大会で「命をみつめて」という題で皆に生きるメッセージを送る強い思いが描かれた実話を資料として授業を行った。

⑥外部講師の講演を通じたがん教育講演会（中学 1 年・2 年・3 年対象）

11 月 18 日「がんになってよかったこと」。外部講師として一般社団法人「学びに SPARK を」代表に依頼した。自身の乳がんの闘病経験から、宣告時の心理的な状況、検査や手術、入院の実際、自信の周りの反応、がんになってからの自身の変化とこれから将来に向けてなど、スライドを用いて話された。

⑦授業実践（4 時間） 保健（中学 1 年対象）

11 月「健康な生活と病気の予防」。がんについての正しい知識と望ましい生活習慣について、学んだ。

⑧授業実践（5 時間） 保健（中学 2 年対象）

11 月「健康な生活と病気の予防」。がんについての正しい知識と望ましい生活習慣について、学んだ。

・生活習慣病とその予防 ・がんとその予防 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康

⑨授業実践（4 時間） 保健（中学 3 年対象）

11 月「健康な生活と病気の予防」。がんについての正しい知識と望ましい生活習慣について、学んだ。

⑩授業実践（2 時間） 特別活動（学級活動）（中学 2 年対象）※公開授業

12 月 16 日「世界の健康～外国人留学生との交流学习～」。一般社団法人「学びに SPARK を」が依頼した留学生 4 人（バングラデシュ出身・ウズベキスタン出身・中国出身・ボツワナ出身）とオンラインで、各国の健康問題と食生活や生活習慣の関わり、日本との相違点や類似点について双方から質問や説明を行い、食生活や生活習慣と健康のかかわりについて理解を深めた。

4. 取組の成果と課題

- ・がんに対する正しい知識を身に付けることができた。
- ・がん経験者の実話をもとにした資料や、講演などにより、自他の命を大切にする態度を育んだ。
- ・外部機関の活用はがん教育総合支援事業を主に利用したが、その他にも他の事業と抱き合わせて講演を行うなど、新たな視点の健康教育の提案にもつながった。
- ・家庭・地域との連携という観点から、講演会や授業の公開を今後は行っていきたい。

(3) その他

特記事項なし

2. 事業の達成度について

1 推進校（モデル校）事業：唐津市立成和小学校

事業前後で実施したアンケートで「そう思う」の数値が

- ・ 質問 1(a) (前) 73%→(後) 92% 質問 1(b) (前) 65%→(後) 82%

と上昇し、児童のがんの正しい知識や生活習慣の大切さへの理解が見られた。

2 推進校（モデル校）事業：唐津市立第五中学校

事業前後で実施したアンケートで「そう思う」の数値が

- ・ 質問 1 (前) 73%→(後) 85% 質問 2 (前) 72%→(後) 84%

と上昇し、生徒のがんの正しい知識や生活習慣の大切さへの理解が見られた。

3 外部講師派遣事業

県教育委員会の外部講師派遣事業を利用した講演数（講師が複数の場合も含む）が増加し、県内各校のがん教育への意識が向上し、取組が増えた。

- ・ 令和 3 年度 23 件 → 令和 4 年度 32 件

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1 研修会をオンデマンドで実施予定であったが、2 月末までに配信ができなかった。より良いものを配信したいという考えではあったが、学校現場の時期的負担にもならないように令和 5 年度は 12 月に研修を実施する方向で進めたい。

2 令和 4 年度はモデル校が小学校と中学校であったが、卒業後社会に出て親元を離れて自分で健康管理をする可能性が高い高校を対象にしたモデル事業を行うべきであった。令和 5 年度は小学校・中学校だけでなく、高校の推進校も選定する予定である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

1 モデル校では「がん教育実践カリキュラム」を策定するなど、今後を見据えた取り組みをしていただいた。このような実践を地区（今回は県北部）だけではなく、全県的に紹介する取組を考え、がん教育を通して「自分の健康に対して主体的に取り組む」児童生徒の育成に繋げていきたい。また県内を地区に分けての推進校の指定は、令和 4 年度で一巡した。かつての推進校が複数年にわたって実践していった結果どのような成果や問題点が生じ、どのように改善していったかを県として共有していきたい。

2 がん教育によって、生活習慣や早期発見・早期治療の大切さという意識が児童生徒に芽生えたことを大切にするためにも、これを家庭や地域にどう広げていくかを協議会や推進校の実践事例として考えていきたい。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 計13人

<内 訳>

県医師会1人（消化器外科、外科、内科、理学療法科専門）、大学教授1人、がん患者支援団体2人
PTA1人、校長3人、養護教諭2人、市教委1人、県衛生主管部局1人、県教委1人

2. 開催時期、検討内容

○第1回（8月19日 集合開催）

- ・協議会設置要項の確認
- ・本県のがん教育の課題や目標等の共通理解
- ・具体的取組計画（がん教育指導者研修会の実施や外部講師派遣の実施、先進的な取組事例の周知
がん教育外部講師リストの拡充等）の内容について

○第2回（1月27日 集合開催）

- ・令和4年度事業報告
- ・取組成果の検証及び次年度事業計画の検討等

② 教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会（10月13日 WEB開催） 講師：がん専門医

- ・がん教育推進の中心を担う管理職や保健主事及び養護教諭等の学校職員、外部講師候補の医師・看護師・保健師やがん患者支援団体を対象に実施した。
- ・参加者111名（内訳：教職員89名、医療関係者16名、がん患者支援団体4名、行政職2名）

○がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表（10月13日 WEB開催）

- ・発表者：長崎市立中学校養護教諭
- ・各学校における取組の参考となるよう、研修会において前年度推進校の実践発表を実施した。

○がん教育外部講師派遣（小学校3校、中学校4校、高校2校、特別支援学校2校 計11校）

- ・希望する学校へ外部講師を派遣し、地域のがん教育推進校として講演会等を実施した。

○外部講師を活用したがん教育の先進的な事例の周知

- ・各学校の取組の参考となるよう、各推進校における講演会等の状況や児童生徒の変容を県のホームページに掲載した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・学校への外部講師派遣については、教育委員会で希望をとりまとめ、講師の調整は関係機関に依頼し、派遣している。
- ・保健部局については、「がん診療連携拠点病院」からの外部講師（がん専門医、看護師等）の依頼について担当している。
- ・県医師会とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。

- ・がん患者支援団体とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。
- ・保健所から研修会への参加者はいるが、コロナ禍もあり、外部講師の依頼までには至っていない。
- ・保健部局と連携し、外部講師派遣リストの更新を行った。また、保健部局と共催し、外部講師経験豊富な医師4名をパネリストに迎え、外部講師候補となる医療関係者を対象とした「がん教育指導者シンポジウム」を3月2日に開催予定である。

(2) モデル校における取組

<小学校3校、教科：特別活動、体育>

- 佐世保市立赤崎小学校（5・6年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ『「がん」について正しく理解しよう！』
- 雲仙市立愛野小学校（6年）
 - ・放射線科医師による授業の実施
 - ・テーマ「がんについて知り、予防や早期発見に努めるには」
- 波佐見町立東小学校（6年）
 - ・がん専門看護師による授業の実施
 - ・テーマ『「がん」という病気について正しく知り、自分の生活を見直そう』



<中学校4校、教科：保健体育、総合>

- 長崎市立長崎中学校（全学年）
 - ・がん専門医による授業の実施
 - ・テーマ「自他の健康と命の大切さ」
- 佐世保市立福石中学校（2年）
 - ・がん専門医による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについて正しく理解し、自他の健康と生命について考えよう」
- 諫早市立喜々津中学校（2年）
 - ・がん専門医による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについて学びを深め、健康を守る、命を守る生活習慣の確立を目指そう」
- 松浦市立志佐中学校（2年）
 - ・がん専門医による講演会の実施
 - ・テーマ「がん教育を通して健康と命、思いやりの大切さを考える」



<高等学校2校、教科：保健体育>

- 県立佐世保中央高校定時制夜間部（1・3・4年）
 - ・がん専門医による講演会の実施
 - ・テーマ「がんの種類・原因と治療法について」
- 県立壱岐高校（全学年）
 - ・内科医による講演会の実施
 - ・テーマ「がんの早期発見と治療に関して」



<特別支援学校2校、教科：保健体育>

- 県立盲学校（中学部・高等部、専攻科）
 - ・ がん専門看護師による授業の実施
 - ・ テーマ「がんの予防（望ましい生活習慣）」
- 県立諫早東特別支援学校（中学部）
 - ・ がん専門看護師による授業の実施
 - ・ テーマ「がんとその予防について」

保健部局と連携し、学校の希望に可能な限り沿う形で講師を選び、派遣したことで、がんへの正しい理解や望ましい生活習慣、自他の命の大切さについて学びを深めることができた。

全11校のモデル校とも、外部講師との打合せを綿密に行うとともに、児童生徒には事前と事後に、職員には事後にアンケートを実施し、取組後の変容把握に努めた。

特別支援学校での取組では、学校と講師が連携を密に行い、点字や拡大文字での資料づくり等、生徒の特性に応じた資料の作成を工夫することで効果的な学びにつながった。



(3) その他 ・特記事項なし

2. 事業の達成度について

- 協議会については、それぞれの委員の専門的な立場から事業推進について、建設的な助言をいただいた。特に外部講師派遣の持続的な取組充実に向けて、委員（県医師会）から「予算面を考慮し、学校医の活用を促進することが効果的である」という意見は参考となった。がん教育の重要性を再認識するとともに、今後の取組について課題を共有することができた。
- がん教育指導者研修会については、外部講師経験豊富な医師にご講義いただき、受講者の理解度は「理解できた」94.1%、「やや理解できた」5.9%と高評価を得た。また、Web開催については、離島部の教職員や医療関係者からも参加しやすいと歓迎する声が多かった。
- がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表として、研修会において、令和3年度のモデル校に自校の取組を発表してもらった。本実践発表における受講者の理解度は「理解できた」90.6%、「やや理解できた」8.2%と高評価であった。発表を聞き、「自校でも実践したい」という感想が多く、実践意欲につながる効果的な発表となった。
- 11校に外部講師を派遣した。児童生徒に対するアンケートでは、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」の問いに「そう思う」と答えた児童生徒が、実施前80.4%から実施後88.4%に増加した。また、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」が、実施前53.8%から実施後69.2%に、「がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい」が、実施前67.1%から実施後75.1%にそれぞれ増加するなど、顕著な変容が見られ、大きな成果が得られた。児童生徒の感想の中には、「生活習慣を見直し、命を大切にしたい」や「今日聞いた話を家族にも伝えたい」といった内容が記されており、がんに対する正しい認識や命の大切さを考える機会になったことがうかがえる。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 今年度事業は国費のみ、令和5年度事業についても国費のみでの実施計画としている。
- がん教育指導者研修会については、「がん」を扱う授業を担っている保健体育科教員の参加が少ないことや外部講師候補となる医療従事者及びがん経験者等の参加が少ないことが課題である。次年度は、健康教育講座の一部に位置付け、開催日程を早期に提示したい。また、がん患者支援団体と連携し、外部講師候補となるがん経験者を対象とした「がん教育指導者シンポジウム」の開催を企画予定である。
- 外部講師派遣については、今年度22校から派遣希望申込があったものの、予算上11校の派遣となった。学校医への働きかけや無償で派遣に応じる講師リストの整理、市町教育委員会との連携を通じて、希望するすべての学校及び過年度派遣していない地域に講師を派遣できるよう取り組みたい。

モデル校における講師の希望は、がん専門医や医療関係者に限られ、がん経験者の希望があがってこない。がん患者支援団体は、がん教育に取り組みたい意向はあるが、学校の希望とマッチしないため、派遣できていない状況である。市町教委に現状を伝え、積極的な活用について働きかけるとともに、がん患者支援団体には活動地域の市町教委や学校への広報・啓発の促進を依頼する。

本来であれば、モデル校における取組は、その地域で公開・共有することを原則としているが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により困難であった。各学校における実践の参考となるよう、研修会やホームページ等において先進的な取組の実践発表や紹介を継続していきたい。また、次年度のモデル校には、コロナの感染状況を見極めながら、より積極的に保護者や近隣校への開催案内の周知を依頼する。

実施後は、お礼状や児童生徒の感想文の送付で完了しており、講師と学校が、効果の検証をするまでには至っていないため、その体制づくりが必要である。
- 外部講師リストについては、掲載している医療機関の要請で現状は非公表となっている。本事業における活用だけでなく、外部講師を探す手立てとして、各学校や各市町教育委員会が効果的に活用できるよう、保健部局と連携し、医療機関との調整を図りたい。また、講師の得意とする校種や謝金等の有無など、リストの記載内容及び活用体制についても整備を進めたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 自校における健康課題の解決を図るための学習が優先となり、がん教育への取組は学校間や校種間で温度差がある。今後も関係機関との連携を密に図りながら、がん教育推進のための教材や補助教材の効果的な活用を促し、質の充実を図っていきたい。

また、「がん教育に取り組む時間の確保」に課題を感じる学校が多いことから、モデル校の取組例などを積極的にHP等で発信し、がん教育を無理なく、すべての学校で当たり前に行えるよう目指していく。
- 県内私学におけるがん教育の実施状況については把握できていない。今後は、私学所管課との連携や働きかけを通して、県内すべての学校で推進されるよう努めたい。
- 令和3年度がん教育実施状況調査（文科省）では、モデル校以外の外部講師活用校は23校（小学校10、中学校12、特別支援学校1）であった。県全体の実施割合は、5.4%と低く、校種間にも差異が生じている。今年度の実施状況との比較等、丁寧に検証を行い、次年度協議会の議題とする。
- 県事業以外でも学校が外部講師を活用できるよう、市町教委に地域人材の発掘や地域に密着した講師リストの作成を働きかける。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

ア 構成員(18人)

医師(がん専門医)1人(内科医)1人, 保健所長1人, NPO法人(がん経験者)1人, モデル校(学校長, 教職員)6人, 養護教諭代表2人, 県保健福祉部健康増進課係長1人, 関係市教育委員会指導主事1人, 県教育庁義務教育課指導主事1人, 人権同和教育課指導主事1人, 保健体育課長1人, 保健体育課指導主事1人

イ 開催時期、検討内容

【第1回鹿児島県がん教育総合支援事業連絡協議会】

- ・ 開催期日 令和4年7月27日(参加者15人)
- ・ 検討内容

昨年度までの実践の課題を受けて, 本年度は, 教職員を対象とした研修会や医療関係者及びがん経験者等を対象とした研修会の開催, モデル校を小・中・高等学校各1校の3校設置すること, 県健康教育研究大会におけるがん教育分科会の新設などについて提案し, 協議を行った。

【第2回鹿児島県がん教育総合支援事業連絡協議会】

- ・ 開催期日 令和5年1月23日(参加者14人)
- ・ 検討内容

本年度新規で行った研修会やモデル校の実践, 県健康教育研究大会におけるがん教育分科会の取組などについて報告し, 成果と課題の検証, 次年度に向けての懸案事項等について協議した。

② 教育委員会としての取組

ア 研修会の開催

【がん教育指導者研修会】

- ・ 開催期日 令和4年8月8日
- ・ 対象 公立学校の教職員, 市町村教育委員会等の学校保健担当者
- ・ 講師 がん教育モデル校校長, 養護教諭, がん経験者, 県教育委員会保健体育課
- ・ 参加者 131人

【がん教育外部講師研修会(オンライン)】

- ・ 開催期日 令和4年8月27日
- ・ 対象 医療関係者, がん経験者等
- ・ 講師 大学教授, がん専門医師, がん経験者, 県くらし保健福祉部, 県教育委員会保健体育課
- ・ 参加者 49人

【県健康教育研究大会】

- ・ 開催期日 令和5年2月8日
- ・ 対象 公立学校の教職員, 市町村教育委員会等の学校保健担当者
- ・ 講師 がん教育モデル校校長, 養護教諭
- ・ 参加者 58人

【がん教育について周知を行ったその他の研修会】

県保健体育課主催の既存の研修会において、がん教育に関する講義の時間を設定し、がん教育授業の進め方や配慮事項等について周知を行った。周知を行った研修会は以下のとおりである。

- ・ 学校保健・安全・歯科保健講習会（オンライン 10月26日：参加者248人，11月17日：参加者：237人）
- ・ 県高等学校・特別支援学校養護教諭研修会（6月22日：参加者103人）
- ・ 県高等学校・特別支援学校体育担当者研修会（6月24日：参加者109人）
- ・ 小・中学校体育担当者研修会（6月27日：参加者34人，7月6日：参加者82人）

【研修会において周知を行った主な内容】

- ・ がん教育の背景，がん教育の目標，内容
- ・ 保健体育科におけるがん教育授業の進め方，教材等の紹介
- ・ がん教育を進めるに当たっての配慮事項
- ・ がん教育における外部講師の活用



【体育担当者会研修会】

イ モデル校の設置

県内小・中・高等学校から各1校ずつ，3校設置し，特に外部講師を活用したがん教育を推進する取組を実施，その成果と課題について検証した。

- ・ モデル校

鹿児島市立宇宿小学校
鹿児島市立清水中学校
県立曾於高等学校

ウ 県がん教育外部講師リストを活用した学校への外部講師派遣の実施

令和3年度に作成した県がん教育外部講師リストを活用し，県内小・中・高等学校30校にがん教育外部講師の派遣を行った。

- ・ 県内学校への派遣希望調査の送付（8月）
- ・ 派遣校の決定（10月）
- ※ 県内学校96校から希望があり，30校の派遣を決定
- ・ 派遣に関する講師や学校との打合せ（10月）
- ・ 学校への外部講師派遣（11月から2月）
- ※ 30校の派遣内訳

- ・ 小学校15校，中学校9校，高等学校6校
- ・ 医療関係者7校，がん経験者23校

■モデル校						
学校名	派遣講師	実施形態	派遣日時	対象学年	人数	人数
1 県立曾於高等学校	がん経験者	対面	11/11（金）	2年	1	15
2 鹿児島市立宇宿小学校	がん経験者	対面	11/21（木）	6年	3	89
3 鹿児島市立清水中学校	がん経験者	対面	1/23（月）	2年	1	40

■授業						
学校名	派遣講師	実施形態	派遣日時	対象学年	人数	人数
1 県立志布志高校	がん経験者	対面	11/14（月）	1年	3	88
2 県立福山高校	がん経験者	対面	11/21（月）	1-3年	6	77
3 鹿児島市立伊敷中	がん経験者	対面	11/24（木）	2年	6	232
4 県立屋久島高校	がん経験者	オンライン	11/29（火）	1年	2	63
5 県立吹上高校	がん経験者	対面	11/30（水）	1年	3	55
6 伊仙町立面純中	がん経験者	対面	12/2（金）	1-3年	3	66
7 南九州市立丸玉小	がん経験者	対面	12/6（火）	5,6年	1	15
8 薩摩川内市立可愛小	がん経験者	対面	12/10（土）	6年	3	94
9 枕崎市立立神小	がん経験者	対面	12/13（火）	6年	2	45
10 始良市立西始良小	がん経験者	対面	12/13（火）	6年	1	27
11 曾於市立恒吉小	がん経験者	対面	12/15（木）	1-6年	3	14
12 肝付町立内之浦中	がん経験者	対面	12/15（木）	2年	1	9
13 長島町立獅子島中	がん経験者	オンライン	12/19（月）	1-3年	3	12
14 鹿児島市立鹿児島商業高校	がん経験者	対面	12/19（月）	1年	6	150
15 南種子町立長谷小	がん経験者	対面	12/20（火）	5,6年	1	11
16 県立加世田高校	がん経験者	対面	12/21（水）	1,2年	6	189
17 伊佐市立菱刈中	がん経験者	対面	12/21（水）	2年	2	51
18 阿久根市立船本小	専門医	オンライン	1/17（火）	6年	1	34
19 屋久島町立岳南中	専門医	オンライン	1/18（水）	1-3年	3	73
20 大和村立大和中	がん経験者	対面	1/19（木）	2,3年	2	20
21 龍郷町立龍南中	専門医	オンライン	1/19（木）	2年	2	41
22 知名町立田菅中	看護師	オンライン	1/23（月）	1-3年	3	50
23 いちき串木野市立羽島小	がん経験者	オンライン	1/25（水）	6年	1	7
24 奄美市立赤木小	がん経験者	オンライン	1/26（木）	6年	1	19
25 霧島市立向花小	がん経験者	対面	1/27（金）	6年	2	55
26 中種子町立星原小	専門医	オンライン	1/27（金）	5-6年	1	7
27 志布志市立尾野見小	がん経験者	対面	1/30（月）	6年	2	55
28 鹿児島市立伊敷小	薬剤師	対面	2/1（水）	6年	2	75
29 南大隅町立神山小	看護師	オンライン	2/7（火）	6年	1	30

■家庭教育学級				
学校名	派遣講師	実施形態	派遣日時	人数等
1 南さつま市立長屋小	がん経験者	オンライン	11/21（月）	職員6人，保護者5名

【令和4年度がん教育外部講師派遣一覧】

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

本年度，県くらし保健福祉部健康増進課が，がん教育の授業に活用できる「鹿児島県版の副教材」を作成した。県教育委員会では，原稿の作成段階で助言等を行うとともに，がん教育授業において，本教材が積極的に活用されるよう活用事例を作成し，周知を行った。



【小学校版】



【中学校版】



【高等学校版】

(2) モデル校における取組

がん教育の推進を図るモデル校については、昨年度まで県内1校を設置してきたが、本年度は、がん教育のさらなる普及・啓発を図るため、県内小・中・高等学校の各1校ずつ3校を設定し、公開授業や授業研究等を通して、発達段階に応じたがんに対する正しい理解をめざした授業や外部講師の活用等について検証を行った。

【小学校】

学校名 鹿児島市立宇宿小学校
公開授業期日 令和4年11月17日
実施教科 第6学年「学級活動」
実施内容 がん経験者を講師とした
公開授業及び授業研究
参加者対象(数) 鹿児島市内小学校教職員
(56人)



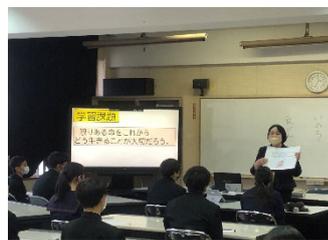
【公開授業】



【授業研究】

【中学校】

学校名 鹿児島市立清水中学校
公開授業期日 令和5年1月24日
実施教科 第2学年「道徳」
実施内容 がん経験者を講師とした
公開授業及び授業研究
参加者対象(数) 鹿児島市内小学校教職員
(39人)



【公開授業】



【授業研究】

【高等学校】

学校名 県立曽於高等学校
公開授業期日 令和4年11月11日
実施教科 第2学年「保健体育科」
実施内容 がん経験者を講師とした
公開授業及び授業研究, 医療関係者による講演会
参加者対象(数) 鹿児島市内小学校教職員
(49人)



【公開授業】



【授業研究】

2. 事業の達成度について

(1) 自治体における取組

- ・ 教職員を対象とした研修会や医療関係者及びがん経験者等を対象とした研修会の開催, モデル校の小・中・高等学校各1校の設置, 県健康教育研究大会におけるがん教育分科会の新設など, 新たな取組を実施し, がん教育の普及・啓発につながった。
- ・ 県くらし保健福祉部健康増進課が作成した, がん教育の授業に活用できる「鹿児島県版の副教材」を広く周知し, 積極的な活用が図られた。
- ・ 昨年度作成した県がん教育外部講師リストを活用し, 県内小・中・高等学校30校にがん教育外部講師の派遣を行い, 医療関係者やがん経験者の声を届け, がんについての正しい理解, 命の大切さについて深く考える機会につなげることができた。

【研修会参加者の感想抜粋】

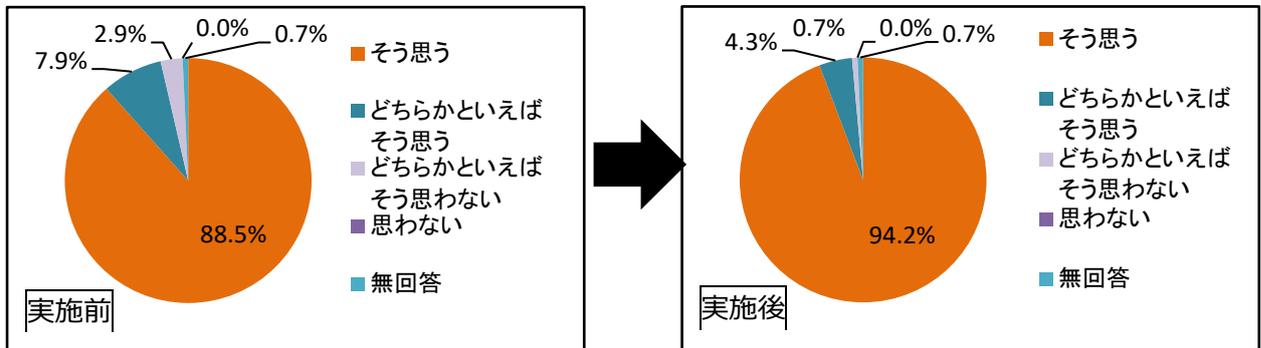
- ・ 様々な家庭環境の中で生活している子供たちがいる中で, 必要な配慮を授業者が理解しておかなければならないと感じた。学校に戻り, 職員と共有したい。
- ・ モデル校の実践発表から, がん教育は保健体育科の授業に限らず, 他教科とも関連付けながら学校の教育活動全体で取り組む必要があることが分かった。

(2) モデル校における取組

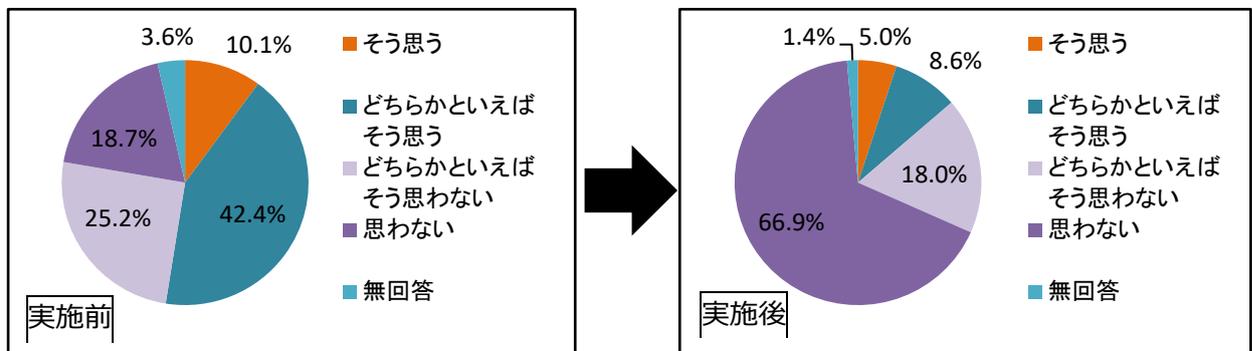
県内小・中・高等学校の各1校ずつ3校を設定し、公開授業や授業研究等を通して、発達段階に応じたがん教育授業の在り方等について検証を行うことができた。子供たちの感想やアンケートの結果からがんや命についての意識の変容が見られた。

【生徒のアンケート結果】

【Q1-a がんの学習は健康な生活を送るために重要だ】



【Q3-a 自分はがんにならないと思う】



【公開授業の感想（子供の感想抜粋）】

- ・ 私は、今、友達とのことでとても悩んでいます。今日のお話を聞いて、「一人よりも二人」という言葉が心に残りました。一人で悩まず、いろいろな人を頼って相談しようと思いました。（小学校女子児童）
- ・ 命はとても大切なもので、一度しかもらえないものなので、つらいことがあっても勇気をもっていこうと思いました。（中学校女子生徒）
- ・ がんになってしまって、つらかったはずなのに前向きに生きようとする姿がすごいと思いました。自分の命や生き方について改めて考えさせられました。（高等学校男子生徒）

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 本年度新たに位置付けたがん教育に関する研修会や講義を通して、多くの教職員や外部講師に対して学習指導要領に基づくがん教育について周知することができた。次年度以降も研修会等を引き続き実施し、教職員や外部講師の資質向上につなげるとともに、県内のがん教育のさらなる充実を図る必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ がん教育モデル校の公開授業や研修会等を通して、外部講師の有効な活用について検証、周知できた。今後は、モデル校以外の学校へ外部講師派遣を増やすとともに、派遣可能な外部講師数を増やしたい。関係団体等とも連携を図り、再度、外部講師リスト登録への協力要請を行う必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 15名

- 内訳：医師（内科）3名
- 歯科医師 1名
- 薬剤師 1名
- がん患者の会 1名
- 校長 3名（小・中・高）
- 養護教諭 1名
- 神戸市健康局 2名
- 神戸市教育委員会 3名

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会

：令和4年10月20日（木）

- ・令和3年度がん教育の取組報告
- ・令和4年度「がん教育総合支援事業」について
- ・令和4年度がん教育の計画について
- ・教職員向け研修会の実施について
- ・学校における取組、推進校の選定について
- ・外部講師の活用に対応できる条件整備について
- ・神戸市作成リーフレットの活用について

○第2回協議会：令和4年11月18日（金）

～推進校（大沢中学校）学校保健委員会見学のあと、協議会～

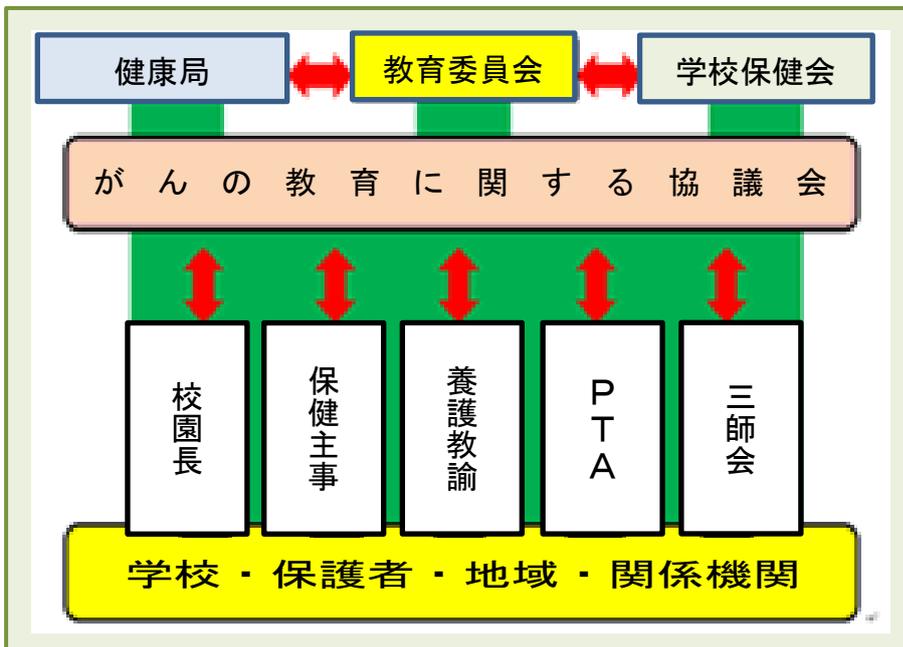
- ・大沢中学校の取組について
- ・生徒たちがつくりあげる活動「知る、調べる、共有する、発信する」
- ・参加した学校薬剤師による講話 ・がん教育関係者会議メンバーによる情報交換

② 教育委員会としての取組

- ・あらゆる機会をとらえ、がんに関する教育の必要性、国の動向、本年度の取組等を説明し、教職員の意識付けを図るとともに、課題となる内容の把握に努めた。
- ・研修会は、顕著な取組が見られた神戸市養護教諭研究会北区のメンバーに呼びかけ、推進校（有馬中学校）の活動を見学し、情報交換会の形をとった。講演会の講師を交えた有意義な意見交換の機会となった。
- ・リーフレット（KOBEがんガイド2023 中学校版・がんについて考えよう）作成
- ・がん教育実践事例集：令和3年度はコロナの影響により作成ができなかったため、2年分の事例をまとめたものとして編集。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

「神戸市がん対策懇話会（神戸市健康局主催）」が開催された。関係部局として出席し、がんに関する教育を含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言を得た。



(2) モデル校（推進校）における取組

① 神戸市立大沢中学校の取組 学校保健委員会

1. 日 時 令和4年11月18日（金）14:00～
2. テーマ 「がんについて知ろう」
3. 場 所 体育館
4. 対 象 全校生、教職員、がん教育関係者会議メンバー、学校薬剤師
5. 内 容
 - ・アンケートの結果について
 - ・これまでの授業の取組について
 - ・学校薬剤師による講話



② 神戸市立有馬中学校の取組 学校保健委員会（神戸市健康教育推進指定校としての取組）

1. 日 時 令和4年12月8日（木）14:20～15:10
2. テーマ 「いのちについて考える」～だれもが暮らしやすい社会づくり～
3. 場 所 体育館（リモート同時開催）
4. 対 象 3年生（体育館）2年生（リモートにより各教室）
5. 内 容
 - ・授業公開（道徳）「命を見つめて～猿渡瞳さんの六百四十六日～」



(3) その他

○リーフレット「KOBE がんガイド 2023 中学校版・がんについて考えよう」の作成

- ・ねらい：中学生が学校で学習した「がん」のことについて、保護者と話し合うきっかけとして活用することをイメージして作成している。「がん」についての正しい知識をもとに、早期発見、早期治療への意識を高められるようにというねらいがある。

○「がん教育実践事例集 Vol.8」の作成

- ・ねらい：がん教育推進校の取組を紹介することで、次年度の各校におけるがん教育の取組の活性化を図っている。これまで、年1回の発行を続けてきたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で発行できなかった。本年度は、昨年度の推進校を合わせて、3校分の取組を紹介している。

～次ページ参照～

KOBEがんガイド 2023 中学校版

がんについて考えよう

がんを正しく理解し
健康と命の大切さについて考える

「KOBE がんガイド 中学校版」は、中学生が学校で学習した「がん」のこまごまについて、保護者の方と話し合えるようイメージして作成しました。がんについての正しい知識をもとに、早期発見・早期治療への意識を高め、がんを怖れず（学習や検診の受診等）とて、健康が暮らしやすくなることを願っています。

中学校2年生の保健体育科の授業で、「がんの予防」について学習します。学校、自宅と両面併行し、地域や学校の事情に応じて、特別活動・道徳・総合的な学習の時間等の中で、「がん教育」を進めています。神戸市でも、多くの取組を行っています。

日本人の2人に1人が、がんにかかると言われています。だから、がん検診に行き、早く発見することが、とても大事なんだよ。

学校でがんの学習をしているんだね。がん検診、受けてみるよ。

＜神戸市がん対策推進条例＞（平成26年4月1日施行）
（目的）第1条 この条例は、本市のがん対策を総合的に推進するため、がん対策に関する基本的事項を定め、もってがんの予防及び早期発見の推進並びにがんによる健康被害の防止並びにがん患者及びその家族への支援を図ることを目的とする。
（がんに関する教育の推進）第6条
市は、学校教育の場において、健康の保持増進及び疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組みものとする。

がんはどのように進行するのか

がんは細胞の遺伝子変異が蓄積して発生し、増殖し、転移して他の臓器に広がる病気です。

がんの進行度別に見た5年生存率

がんの進行度別に見た5年生存率

進行度	5年生存率
1期（早期）	93.2%
2期	82.0%
3期	55.8%
4期（晚期）	22.9%

7割もダウン！
早期発見・早期治療が命を救います

早期に見るためにがん検診を受けましょう

がん検診は本業、全額自費ですが、神戸市では安価な自己負担検診で手軽に受診できる制度を準備しています。
詳細情報は、神戸市HP「がん検診」のページをご覧ください。

がん種別	検診方法	検診対象	検診料	受診期間	実施機関
胃がん	2検体検査（ピロリ菌）	40歳以上	1回1回 600円	検診券（5回）	九条済生会診療所
	胃がん検便検査	50歳以上	2回1回 2000円	検診券（5回）	神戸市立総合医療センター
大腸がん	検便検査（便潜血）	40歳以上	1回1回 500円	検診券	九条済生会診療所
	検便検査（検便検査）	40歳以上	1回1回 1000円	検診券（5回）	神戸市立総合医療センター
乳がん	マンモグラフィ	40歳以上	1回1回 1000円	検診券（5回）	神戸市立総合医療センター
	マンモグラフィ	50歳以上	2回1回 2000円	検診券（5回）	神戸市立総合医療センター
子宮頸がん	細胞診、検便、検尿	20歳以上	2回1回 1700円	検診券（5回）	神戸市立総合医療センター

がんは、とても大きな健康課題です

令和3年 死因の割合

がん 27%

死因の割合は、全体の27%です。がんにはがん細胞、生活習慣、細菌・ウイルス感染、もって生まれた体質など、様々な原因があります。

正しい生活習慣により、がんになる危険性を減らすことができます。悪いことから生活習慣に気をつけることが大切です。

正しい生活習慣とは

- 喫煙：がんの発生率を高める
- 飲酒：がんの発生率を高める
- 食生活：がんの発生率を高める
- 運動不足：がんの発生率を高める
- 適正体重：がんの発生率を高める

がん罹患数、がん死亡数が多い部位

種別	1位	2位	3位	4位	5位
罹患数 2019	大腸	肺	胃	乳	肝臓
死亡数 2019	大腸	肺	胃	肝臓	膵臓

がんを予防するワクチン

子宮頸がん予防(HPV)ワクチンを接種しましょう

子宮頸がんは、子宮の癌腫という子宮の出口に近い部分で発生するがん、患者さんは20歳前後から増えています。日本では毎年、約11万人の女性ががん、約2,900人が亡くなっています。がんにより子宮を失うことで妊娠できなくなることもあります。

子宮頸がんは、ヒトパピローウイルス(HPV)の感染が原因で発症し、HPVワクチンは子宮頸がんをおしよわいタイプのウイルスの感染を防ぎます。

小学生5年生～高校1年未満の女子は、無料（公費）でHPVワクチンの接種を受けることができます。対象の方は、接種券を送付しています。予約の状況に応じて、接種券が不足する場合があります。日本では毎年、約11万人の女性ががん、約2,900人が亡くなっています。がんにより子宮を失うことで妊娠できなくなることもあります。

がん患者の思いとともに生きる社会をめざして

がん患者の思いとともに生きる社会をめざして

がん患者の思いとともに生きる社会をめざして

がん患者の思いとともに生きる社会をめざして

「がん教育実践事例集 Vol. 8」

がん教育実践事例集

Vol.8

令和5年3月
神戸市教育委員会

生徒のアンケートから

以下のグラフは、現3年次生徒が1年次の時の、「がん教育」に取り組む事前アンケートと、3年次の「いのちの教育講演会」後のアンケートを比較したものとします。

問い「がんは腫瘍もがんの可能性のある癌腫である」

1年次	正しい	わからない
88.2%	10.3%	

3年次	正しい	わからない
98%	2%	

問い「がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」

1年次	正しい	わからない
85.5%	13.6%	

3年次	正しい	わからない
98%	9%	

問い「がんになっている人も過ごしやすい世の中にした」

1年次	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない
78.3%	18.8%	29%

3年次	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない
92.2%	7.8%	

「がん」が自分にとって無関係なものではなく、身近な病気であることに気付いた生徒からは、改めて自分自身を見つめ直し、身と将来の自分の生き方について考え始めている。

2. 事業の達成度について

【目標に対しての成果】

○教職員及び外部講師に対する研修会の開催

- ・外部講師の研修会は開催ができなかったため、来年度の実施を目指す。
- ・教職員対象の研修～外部講師による生徒への講演会に合わせて、養護教員対象の研修会を開催。小規模の研修となったが、講師の思いや学校の事情等を情報共有することができた。

○推進校での取組（成果）についての発信

- ・推進校（有馬中）のがん教育は、同校が3か年にわたって「いのちの教育」という大きなテーマで取り組んだ研究の一環でもある。同校の3年間の取組と成果を冊子にまとめ、神戸市内の全中学校へ送付し内容を紹介することで、来年度以降の他校のがん教育の計画等に役立ててもらおうよう促す。

○外部講師リストの更新

- ・新たになん患者の会等に連絡をとり、来年度の外部講師リストに加える予定。

○実践事例集・がんリーフレットの作成

- ・昨年度発行できなかった「がん教育実践事例集」を発行（前頁記載）した。令和3・4年度の取組（推進校3校）を神戸市内の全校種へ配布予定。
- ・リーフレット（KOBEがんガイド2023）を更新。中学2年生（令和5年度）へ配布予定。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和3年度は、年度当初の計画に大幅な変更を加えざるを得なかった。その反省の上、本年度は、感染状況も見据えながら可能な限り、計画通りの取組を行った。

- ・外部講師の更新や研修については、予定通りの実施ができなかったため、早い時期における講師獲得と研修等を計画していく。
- ・本年度は、例年通りに「実践事例集」「リーフレット」の発行ができたが、その活用状況の把握については十分とは言えない。冊子配布時に十分な説明を加えるとともに、年度末には、がん教育の実施状況把握とともに、冊子活用上の課題等も集約する。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

各校の健康課題は種々様々で、その学校の生徒にとっての喫緊の課題をテーマとした健康教育が行われるべきだと考える。

がん教育以外にも多くの取組が求められている学校の現状を考えると、モデル校以外での取組を広げていくことは、容易なことではない。

年度初めに各校より「学校保健計画」が提出されるが、その中で示される「学校保健委員会」のテーマが、各校がその年度に優先する健康課題ということになる。

そこで、「がん」をテーマにしている学校をピックアップし、早い段階で支援や協力を含む情報提供を行う。取組に意欲的な学校を把握し支援することで、実践の裾野を広げていきたい。